

東海・北陸・近畿地区における献血推進活動

- ・平成27年度に取り組んだ献血推進事業
- ・平成28年度に取組予定の献血推進事業

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (富山県)複数回献血クラブ会員募集の強化

【1目的】

安全な輸血用血液製剤の安定的な確保のため複数回献血協力者の確保促進を図る。また複数回献血クラブ(献血LOVEメールクラブ)会員限定のイベントを実施し、日頃の献血協力に対する感謝と、より一層の複数回献血の協力を呼びかける。

【2内容】

- * メール会員募集イベント・・・献血の重要性と複数回献血クラブのPRを民放ラジオ放送局とタイアップし、公開番組収録を行い後日放送した。会場は、献血パネル展示やクイズラー、ステージでのマジックショーや赤十字看護専門学生による合唱で盛り上がった
- * 映画上映会・・・献血LOVEメールクラブ会員限定140名を抽選にて招待し、県西部が舞台となった「人生の約束」を上映した。

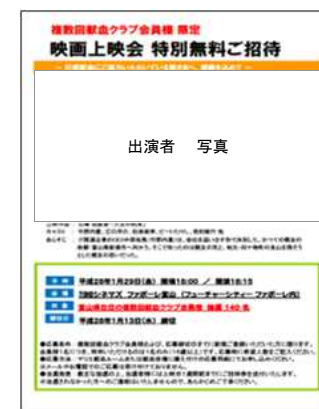
【3実施日・場所】

* メール会員募集イベント

平成27年11月29日(日)10時～16時
イオンモール高岡 1階 セントラルコート

* 映画上映会

平成28年1月29日(金)
TOHOシネマズ ファボーレ富山



複数回献血イベントポスター

映画上映会ポスター

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （富山県）複数回献血クラブ会員募集イベント

【4対象者】全献血者・映画上映会に関しては複数回献血クラブ会員限定

【5実施手順】催事場の無償提供と映画上映会の作品が確定次第企画立案

【6予算額】 1,430,000円

* 複数回献血クラブ会員募集イベント

イオンモール高岡タイアップ費用:80,000円

KNB放送局タイアップ費用:500,000円

会場装飾費用他:450,000円

* 映画上映会費用(140名招待):400,000円

【7効果(評価)】

新規会員確保目標数 900人(75人/月)

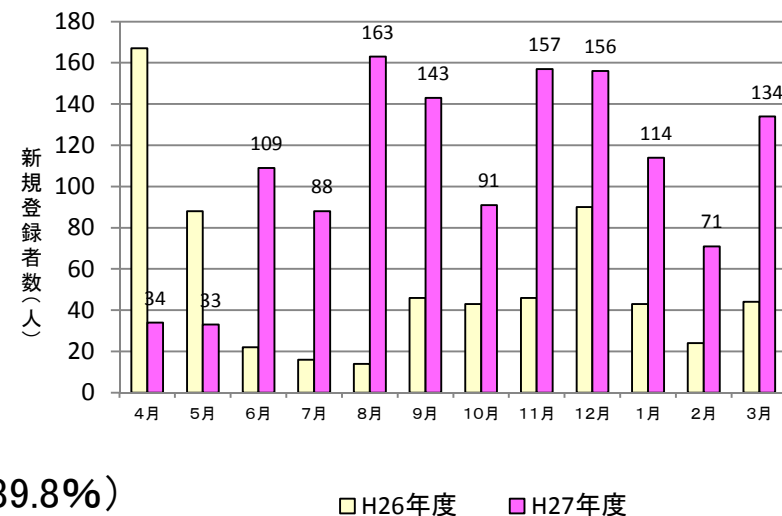
確保数 1,239人 目標達成率:137.7%

※11月～1月 確保数:427人(目標達成率:189.8%)

※イベント実施効果は非常に大きい

【8改善点(又は問題点又は反省点)】

* 経費の削減



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （富山県）中学・高校教師等への働きかけ

高等学校長会議や保健主事研修会等を利用し、中学・高校教師等に対し献血への理解と協力を働きかけた。（平成25年度から実施）

【1目的】 近い将来、献血の主体となる中学、高校生への啓発は献血者を確保するうえで有力な方法であることから、校長、保健主事、教師等に対し、献血の普及啓発を行うとともに、厚生労働省から配布されている高校生向け副読本の活用を働きかける。

【2内容】 ①県教委主催の保健主事研修会や②高等学校長協会の会議に出向き、県作成の献血関係資料に基づき説明を行った。

【3実施日】 ①平成27年5月12日（火）高等学校長協会 全体研修会（⇒各地区内で報告される）
②平成27年5月12日（火）保健主事研修会

【4対象者】 ①高等学校の校長、②中学・高校の保健主事

【5実施手順】 ①県高等学校長協会事務局、②県教育委員会との調整

【6実施に際して苦労したこと】 上記会議において説明を希望する団体が多いため、説明時間が十分には確保できないこと。（H27説明時間は5分程度）

【7予算額】 既定予算内で対応（コピー代、人件費）

【8来場者】 ① 20名程度、② 150名程度

【9効果（評価）】 効果有りと考えている。

【10 問題点】 説明時間が短い、説明後に反応がなく、学校内で周知がなされているか不明

【11今後の対応方針】 継続。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （富山県）若年層献血者確保対策について

高等教育機関（大学・短大・専修学校等）の年間採血計画（回数）を増やし、若年層献血者の確保と複数回献血率の向上を目指す。

【1目的】

少子高齢化進展に伴い、若年層献血者数及び献血率の減少が課題となっている。そこで、県内にある高等教育機関に複数回献血車を配車し、献血活動の啓発と促進を展開することにより積極的に若年層献血者の確保を行う。

【2予定内容】

学生献血ボランティアが在籍する学校では、献血実施前にチラシやティッシュ配布による情報宣伝活動により、献血実施日の周知強化や献血者を確保する。また、複数回献血クラブ会員の募集（入会者特典付き）を行い、メール配信による在学期間中の継続的な献血広報や複数回献血の協力を依頼する。献血にご協力をいただいた学生には粗品を提供する。

【3実施日・場所（予定）】

富山県内 4大学（13回）、1短大（2回）、2高等専門学校（3回）の計18回予定。

【4対象者】

富山県内の高等教育機関に在籍する学生

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （富山県）若年層献血者確保対策について

【5昨年度実績】

- ・4大学(8回)、1短大(1回)、2高等専門学校(2回)計11回実施
- ＊受付:473人、200mL献血:97人、400mL献血:325人、400献血率:77.0%
- ＊1稼働あたり38.4人

【6実施手順】

- ・学生献血ボランティア団体との日程調整
- ・県内各学校との日程調整

【7予算額】

190,000円(広報資材の作成・献血者処遇費用など)

【8目標(効果)】

献血者数:900人(1稼働あたり50人)

【9実施に向けた課題】

効率のよい献血広報対策(献血実施日の周知、体育会との連携など)



献血者処遇品(予定)

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （富山県）映画館での献血啓発CM上映事業

県内の複合映画館で献血啓発CMを上映し、広く県民に対し献血思想の普及啓発を行い、献血への協力を呼びかける。

- 【1目的】 献血CMを上映し、映画館来館者に献血の周知・啓発を図る。
- 【2予定内容】 県が制作した献血啓発CM(15秒)を複合映画館で上映(制作はH17年度)。
- 【3実施日・場所(予定)】 年度前半(4～9月)は富山地区の映画館、年度後半(10～3月)は高岡地区の映画館で上映。
- 【4対象者】 映画館来館者
- 【5昨年度実績】〔H27前期〕 総上映回数:9,952回、総座席数:1,707,683席
〔H27後期〕 未

- 【6実施手順】 初年度 : コンペによりCM制作業者決定、制作
通常年度: 4月委託契約締結～実施
- 【7予算額】 2,042千円(H27と同額)
- 【8目標(効果)】 できるだけ多くの映画館来館者に視聴していただく
- 【9実施に向けた課題】 映画館来館者の拡大



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （石川県）献血ポスターコンクール

中学生を対象としたポスターコンクールの実施、入選作品の表彰、展示会、入賞作品を使用した啓発資材の作成

【1目的】 若年者への献血思想の普及に努め、将来にわたり献血を推進していく。

【2内容】 県内中学生から献血ポスターを募集し、入選者を表彰する。また、入選作品の展示会や入賞作品を次年度配布予定の啓発資材（パンフレット、葉、バス車内広告）に掲載する。

【3実施日・場所】

募集期間：7月～10月

知事表彰：12月22日（県庁）

展示会：12月～1月（県庁、献血ルーム、県内商業施設）

【4対象者】 県内中学生

【5実施手順】

①6月に県内中学へ案内送付

②11月審査会、12月知事表彰

③12月～1月に展示会、1月以降に資材作成、来年度に配布

【6実施に際して苦労したこと】表彰式の日程調整

【7予算額】 知事表彰16千円、記念品17千円、資材作成等444千円

【8応募者数】 325人（25校） ※応募者の中から40人を表彰

【9効果（評価）】 若年層だけではなく、展示会や啓発資材を作成・配布することで幅広い年代の方に献血思想の普及ができたのではないかと考えている。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】 特になし

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】 継続



展示会（県庁展望台）

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（石川県赤十字血液センター）
青少年等献血ふれあい事業 「なぜ？なに？おしえてけん血」

小学生と保護者を対象とした献血セミナー、血液センターの見学

【1目的】 これからますます進む高齢化社会に向けて、若年層における献血思想の普及・啓発を図り、それにより将来における献血者確保を目的とする。

【2内容】 ①献血に関するセミナー
②実験…血液型判定
③血液センター内の見学

【3実施日・場所】

7～8月（1日2回（午前・午後）で3日間実施）

場所：血液センター

【4対象者】 小学4～6年生とその保護者

【5実施手順】 ①6月～7月参加者募集

②7～8月イベントの実施

【6実施に際して苦労したこと】 子供が飽きないように実験を追加

【7予算額】 358千円（ポスター、記念品、実験用品等）

【8来場者】 188名

【9効果（評価）】 献血の大切さを理解し、夏休みの研究材料としていただけた。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】 講演時間の短縮

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】 模擬献血の実施



実験の様子

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （石川県）大学献血での献血PR

大学の学園祭にて、主に大学生に対して啓発資材（ポケットティッシュ）の配布や献血協力への呼びかけを行い、献血思想の普及を図る。

【1目的】 若年層に対する献血思想の普及

【2予定内容】

大学の学園祭会場にて、啓発資材の配布や献血協力への呼びかけを行う。

※学園祭に合わせて献血バスも配車される。

【3実施日・場所（予定）】

10月～11月 場所：県内大学（2か所を予定）

【4対象者】 大学生、学園祭来場者

【5昨年度実績】 県内大学2か所で実施

【6実施手順】

①9月に大学学園祭事務局に対して協力依頼

②10月～11月 学園祭会場にて献血PR

【7予算額】

なし ※ポケットティッシュについては別の事業で作成したものを利用

【8目標（効果）】

献血についてPRし、実際に会場内の献血バスに足を運んでもらうのを目標とする。

【9実施に向けた課題】 雨天時の対応



ポケットティッシュ

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（石川県赤十字血液センター）
石川ミリオンスタースを起用した献血ルームの広報活動

地元プロ野球選手を起用したポスター・チラシの作成、イベントの実施

【1目的】 幅広い年齢層への献血思想の普及啓発

【2予定内容】

- ①選手を起用した広報用ポスターとチラシの作成、配布
- ②街頭での献血呼びかけ
- ③選手とのサイン会

【3実施日・場所(予定)】 年2回、献血ルーム ル・キューブ

【4対象者】 県民

【5昨年度実績】

6月14日・8月14日実施

ポスター千枚・チラシ1万枚作製

【6実施手順】

①4月事務所と打ち合わせ ②5月ポスター作製 ③2月次年度用ポスター作製

【7予算額】 518千円(ポスター、チラシ作製、権利料、発送費用)

【8目標(効果)】 献血ルームにて400mL献血率22%、血小板成分献血率48%

【9実施に向けた課題】 ミリオンスタースファンクラブ会員の献血協力



街頭での献血呼びかけ

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （福井県）「一筆啓上【献血編】」

公益財団法人丸岡文化財団が手紙文化の復権と町おこしを目的に企画した「一筆啓上賞」日本一短い手紙コンクールとのコラボ

【1目的】…… 献血に対する地域住民の意識醸成と若年層への献血思想の普及啓発。

【2内容】…… 献血に関する想いなどを40文字以内で表現した手紙を募集。

応募テーマ：あなたの想いを伝えませんか

【3実施日・場所】…… 平成27年7月1日 ～ 10月31日

【4対象者】…… 県民（応募資格制限なし）

【5実施手順】～10月：募集、12月：選考委員会の開催

2月：表彰式、3月：入賞作品集の配付

【6実施に際して苦労したこと】…… 予想以上の応募で取り纏めが大変。

【7予算額】…… 100万円に対して、執行額：約77万円

【8応募数】…… 平成27年度（第2回） 1,453編

（前回実績：平成25年度 783編）

学校等で、学校行事のように取り組んでいただけたことで応募が多かった。

【9効果（評価）】…… 10代・20代からの応募が90%以上（高校生：約65%）と、献血・輸血について意識醸成できた（推進計画の若年層対策に大きな期待が持てる）

【10改善点（又は問題点又は反省点）】…… 入賞作品を通じて、さらなる県民への周知。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】…… 今後もコラボ事業が継続していけるか否か



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (福井県)献血者が安心して献血できる固定施設

献血推進計画の「献血者が安心して献血できる環境の整備」として、 既存施設でできる体制の見直し

【1目的】・・・献血者の利便性向上および安心とやすらぎをハードでなく、ソフトで対応

【2予定内容】・・・① 献血者が来所しやすい日の開設と休日の混雑緩和

② 献血者からの疑問の声に丁寧に対応

【3実施日・場所(予定)】・・・平成28年4月1日から、母体

【4対象者】・・・県民

【5昨年度実績】・・・なし



【6実施手順】・・・4月から実施（準備は1月から開始）

① 土曜日休みを金曜日に変更し、土・日に献血できる体制とする。

② 献血者への「Q&Aマニュアル(仮)」を作成し、疑問に対応する。

【7予算額】・・・ 0円

【8目標(効果)】・・・① 年間をととして土曜日に定期場所(母体)で献血できる。また、土曜日開設することで日曜日の混雑緩和が期待できる。

② 献血・輸血に関して、献血者のちょっとした疑問に受け答えをすることでご理解と信頼が得られ、複数回や紹介・勧誘につながる。

【9実施に向けた課題】・・・如何に安全・安心な固定施設に誘導できるか。

(特に、献血推進2020の対象者である20代・30代への推進)

土曜日開設による職員の勤務と移動採血車の配車調整。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (岐阜県)高校献血セミナー実施時のアンケート調査

【1目的】

献血セミナー実施前後のアンケート調査により、**献血セミナーによる生徒の献血に対する意識変化を把握**すること。

【2内容】

「あなたは献血に関心がありますか？」

「あなたは献血をしようと思いますか？」の二項目についてアンケートを行った。

【3実施日・場所】

平成27年6月25日、**西濃地域の高校**

【4対象者】

1～3年生 対象693名(セミナー実施前アンケートは708名)

【5実施手順】

セミナー実施前アンケートは、教諭の協力により前日に実施した。

セミナー実施後アンケートは、教諭の協力によりセミナー終了後に実施した。

【6実施に際して苦労したこと】

担当教諭が協力的であり、特になし。

【7予算額】

なし

【8来場者】

セミナー受講者 693名

【9効果(評価)】

「献血に関心がありますか」は、「関心がある」が **実施前 31.3% → 実施後 96.4%**

「献血をしようと思いますか」は、「献血をしたい」が**実施前 46.9% → 実施後 89.6%**

【10改善点(又は問題点又は反省点)】

1回のみの結果でありさらに多くの検証が必要である。

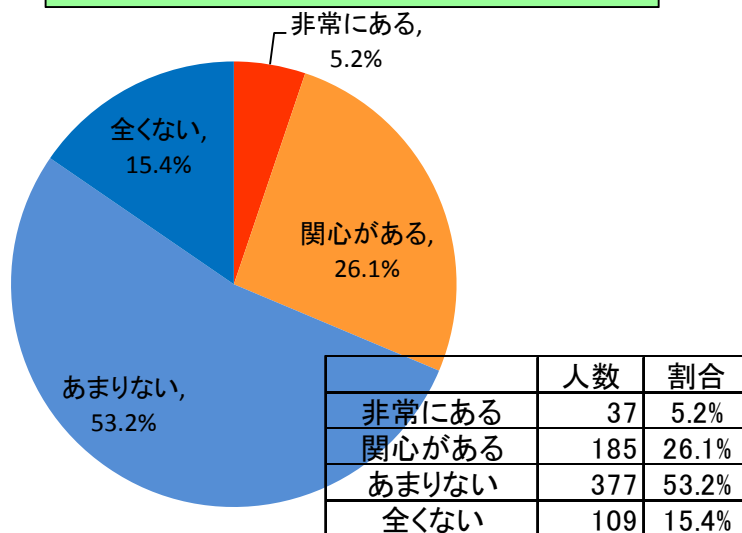
【11今後の課題(又は今後の対応方針)】

28年度以降は実施校数を増やしていきたい。

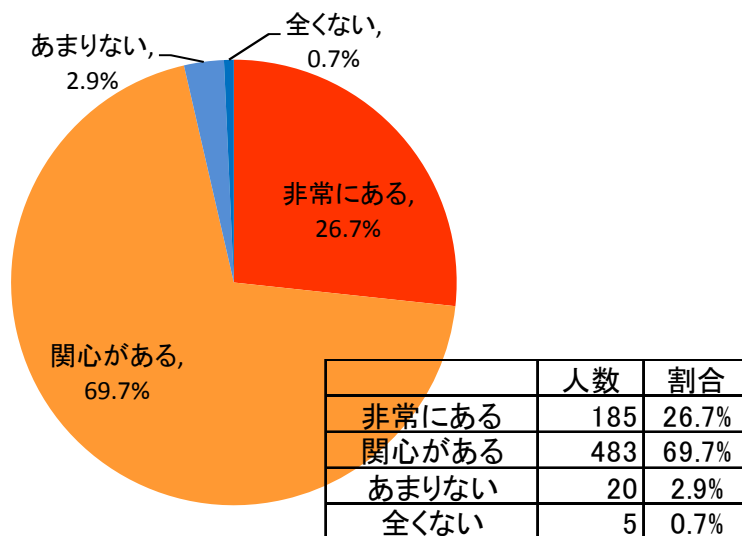
【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (岐阜県)高等学校献血セミナー実施時のアンケート調査

献血に関心がありますか？

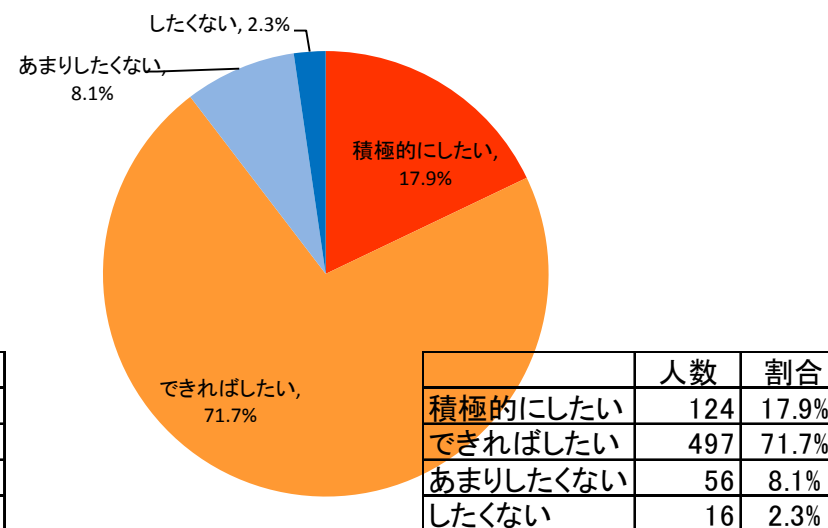
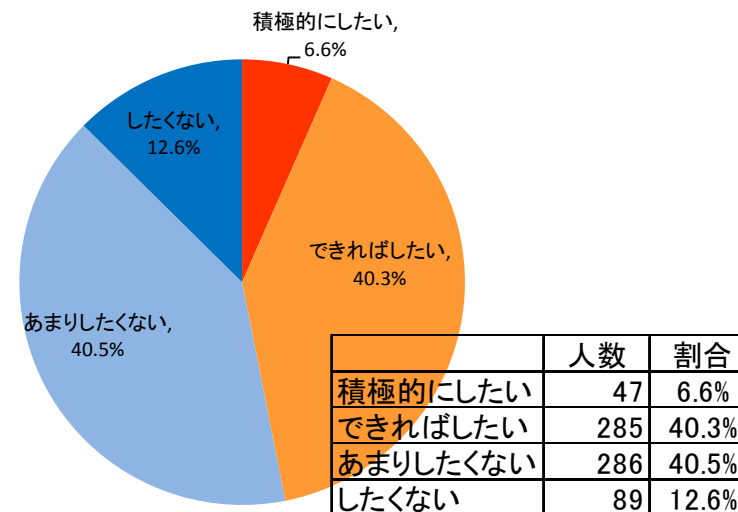
セミナー前



セミナー後



献血をしようと思いますか？



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (岐阜県)FC岐阜との献血推進イベント

【1目的】

地元プロサッカークラブのFC岐阜とコラボして、イベントやキャンペーンを実施し、若年層を中心とした幅広い層に対して献血推進を図る。

【2内容】

- ・FC岐阜とサポートカンパニー契約を締結し、**スタジアム内に広告掲出**を行った。
- ・同クラブの選手を起用した**ポスター**を作成し官公庁、ショッピングモール等に掲示した。
- ・**スタジアム献血**を行い、サポーターの入退場時に「けんけつちゃん」による広報活動を行った。
- ・FC岐阜U-18選手が献血を行い献血PRに協力。
- ・FC岐阜選手の**直筆サイン入りポスタープレゼントキャンペーン**を行った。

【3実施日・場所】

5月31日、7月12日 岐阜メモリアルセンター

【4対象者】



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (岐阜県)FC岐阜との献血推進イベント

【5実施手順】

- ・12～1月(前年度) FC岐阜との打合せ(ポスター制作、スタジアム献血実施日、U-18選手献血協力依頼、直筆サイン入りポスタープレゼント)
- ・2月(前年度) FC岐阜とのサポートカンパニー契約締結
- ・3月(前年度) 献血推進ポスター作成
- ・5月31日、7月12日 スタジアム献血実施
- ・12月 U-18選手による献血協力、直筆サイン入りポスタープレゼントキャンペーンの実施

【6実施に際して苦労したこと】

献血受付時間が集中する(会場のイベント時間や試合開始時間に合わせる必要があるため)

【7予算額】

920,400円{広告費594,000円、ポスター制作費326,000円(協賛金、撮影費、印刷費)}

【8来場者】

スタジアム献血協力者数 5月 79名、7月 47名

U-18選手の献血協力者数 21名、ポスタープレゼント 協力者数 100名

【9効果(評価)】

- ・スタジアム内の広告掲示や、けんけつちゃんの広報活動で、入場者に献血啓発が行えた。
- ・U-18選手による献血協力では、**新聞取材を受けPR効果がさらに高まった。**
- ・スタジアム献血では、**2日間で126名(252単位)の献血があった。**
- ・**通常の会場では若年層の割合が4割であるのに対し、5～6割と若年層の比率が高かった。**

【10改善点(又は問題点又は反省点)】

献血受付が短時間に集中するため、**献血者に待ち時間が発生した。**

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】

スムーズに受付ができるよう、**スタッフ数の確保など準備体制を整える必要がある。**

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （岐阜県）献血推進動画CMの作成

【1目的】

献血キャラクター「けんけつちゃん」と岐阜県のキャラクター「ミナモ」により、若年層への啓発、400mL献血推進のための動画CMを作成し、PR活動に活用する。

【2予定内容】

「けんけつちゃん」と「ミナモ」による15秒の動画CMを作成する。

【3実施日・場所(予定)】

制作 平成28年6月上旬予定

CM放送 平成28年7月全国高校野球選手権岐阜大会期間中

【4対象者】 若年層を中心とした県民

【5昨年度実績】 昨年実績なし

【6実施手順】

6月上旬に制作し、7月のテレビスポットで放送。

【7予算額】

540,000円

【8目標(効果)】

「けんけつちゃん」と「ミナモ」、ふたつのマスコットキャラクターを活用することにより、特に若年層に対して効果的に普及啓発できると考える。

「けんけつちゃん」と「ミナモ」の啓発CMをテレビスポット（全国高校野球選手権岐阜大会期間中等）、献血会場、推進団体等の会議、献血セミナー等で使用することにより、若年層への啓発、400mL献血推進の啓発を行う。

【9実施に向けた課題】

作成後のCM動画について、SNSなどさらに効果的な活用方法も検討する。





【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （静岡県）アボちゃんサポーター事業①

県保健所の所管地域にある高校の生徒を献血ボランティア「アボちゃんサポーター」に委嘱した。県内高校生164人のアボちゃんサポーターが学内献血や学校祭、地域の健康まつり等において献血広報活動を実施し、活動記録「ABOニュース」を作成した。

【1目的】高校生の献血ボランティアによる同世代や地域住民への献血意識の普及

【2事業内容】○健康イベント会場における献血啓発コーナーによる地域住民への献血普及啓発

○学園祭における献血広報、啓発

○コミュニティーFMを活用した啓発

○ABOニュース（血液事業への提言）の作成

【3実施期間・場所】平成27年6月～平成28年1月（県内高校及び健康イベント会場等）

【4対象者】県内の高校生（18校、164人）

【5実施手順】事業実施通知を発出⇒各保健所においてアボちゃんサポーター委嘱

⇒献血意識啓発活動⇒ABOニュースの作成



静岡県オリジナル献血
キャラクター
アボ(ABO)ちゃん



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （静岡県）アボちゃんサポーター事業②

【6実施に際して苦労したこと】少子化に伴う県内高等学校の統合等により、近年県内高校数が減少しているため、事業の協力校の調整に苦労している地域がある。

【7予算額】1,789,000円

【8来場者】地域住民（地域イベント来場者）

【9効果（評価）】静岡県献血推進計画にある若年層対策として実施し効果的であった。将来の献血を支える高校生が献血への理解を深め、ボランティア活動を通じて同世代や地域住民等に献血意識を啓発した。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】特になし

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】アボちゃんサポーターからの「血液事業への提言」を参考に、今後の若年層対策に活かせるよう検討する。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （静岡県）しずおか1629プロジェクト事業

東海調理製菓専門学校とのコラボ企画

けんけつちゃん Cafe



【1目的】学生とコラボレーションし、夏休み期間を利用した若年層への献血啓発を実施

【2内容】①献血会場やスタッフもカフェ風に変身。

②専門学生による菓子形状：けんけつちゃんのアISING入りクッキー製作

③献血ルームでは専門学生の協力でアISING体験を実施

【3実施日・場所】8月8日～29日 献血バス(3会場)献血ルーム(4会場)

【4対象者】献血の受付にお越しいただいた方全員

【5実施手順】4月～5月東海調理製菓専門学校と打合せ

【6実施に際して苦労したこと】日程調整、人工調整

【7予算額】450,000円

【8来場者】407人

【9効果(評価)】学生の手作りクッキーは献血にとっても好評であった。

【10改善点(又は問題点又は反省点)】学生の夏休みを利用したイベントの為、8月限定になってしまうこと。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】当日協力していただけるボランティアの確保

浜松・遠州

若者の献血

「カフェ」で気軽に

県赤十字血液センターの若手職員でつくる「しずおか1629プロジェクト」は12日、浜松市東区の同センター浜松事業所で、若者の献血を促す「けんけつちゃんカフェ」を1日限定で開設した。

若者でも訪れやすいよう、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」が描かれたテーブルクロスなどで待合室を飾り付けた。職員がカフェ風のエプロン姿で接客し、東海調理製菓専門学校（遠州）の学生が協力者にクッキーなどを提供した。

カフェ風にした待合室で、協力者にクッキーなどを提供した若手職員（中央）＝浜松市東区の県赤十字血液センター浜松事業所

東区で1日限定 会場演出、菓子提供も

力で特製クッキーなどを配った。けんけつちゃんの着ぐるみも登場し、PRした。

プロジェクトは、16、29歳の若年層の献血離れを防ぎ、献血不足を回避しようと昨年始まった。県内7会場で実施した昨年の「カフェ」では若者献血者が2割増加したという。

15日にはJR浜松駅北口広場でもカフェスペースを設け、20代の若手職員らが協力者にコーヒーや紅茶、ジュースなどを振る舞う。27日には献血ルーム「みゆうす」（中区板屋町）でも実施する。

若手職員は「献血への不安を解消したい。買物物のついでに気軽に立ち寄ってほしい」と来場を呼び掛けた。

献血会場にカフェ空間

あす浜松駅北口 若い世代の来場を

若い世代の献血者をし、二〇二七年には約百万人分が不足すると推測されている。

十二日は浜松市東区の血液センター浜松事業所であり、四十人が献血した。職員は会場に花などを飾り、茶色いエプロンで受付。東海調理製菓専門学校（浜松市）の生徒が手作りしたオリジナルの献血ルーム・みゆうすでもある。二十七日にはクッキーに絵を描く体験ができる。血液センター浜松事業所事業の曾根渉さんは「献血増やしていきたい」と

カフェ風のエプロン姿でけんけつちゃんのカッキーをアピールする職員＝浜松市東区で

血に足を運んでもらう話している。問い合わせは、浜松事業所 電話 053（421）3151へ。（大野奈美）

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （静岡県）夏休みキッズワンダーランド2015

静岡伊勢丹 夏休みキッズワンダーランド2015

【1目的】小学生の職場体験を中心としたイベントにて献血PR

【2内容】①医師、看護師及び血液供給職業体験。

②けんけつちゃんとの記念撮影。

③献血クイズ等

【3実施日・場所】8月1日～4日 静岡伊勢丹8階催事場

【4対象者】小学生と保護者

【5実施手順】4月申込。5月～6月資材調整。

【6実施に際して苦労したこと】4日間実施の為、職員の調整(事務職員2人+採血課職員2人 計4人×4日 合計16人)※昨年2日間実施

【7予算額】0円

【8来場者】約250人

【9効果(評価)】献血PR

【10改善点(又は問題点又は反省点)】決められたスペースでのイベントなので動線の検討が必要。

【11今後の課題(又は今後の対応方針)】継続、定例化

静岡伊勢丹 夏休みキッズワンダーランド2015



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （静岡県）アボちゃんサポーター事業

県保健所の所管地域にある高校の生徒を献血ボランティア「アボちゃんサポーター」に委嘱し、学内献血や学校祭、地域の健康まつり等において献血広報活動を実施し、活動記録「ABOニュース」を作成する。

【1目的】高校生の献血ボランティア「アボちゃんサポーター」による地域住民への献血意識の普及

【2予定内容】○健康イベント会場における献血啓発コーナーによる地域住民への献血普及啓発

○学園祭等における献血広報、啓発

○コミュニティFMを活用した啓発

○ABOニュース（血液事業への提言）の作成

【3実施日・場所（予定）】平成28年6月～平成29年2月（県内高校及び健康イベント会場等）

【4対象者】県内16高校、160人

【5昨年度実績】県内18高校、164人をアボちゃんサポーターに委嘱し、学園祭、地域の健康まつり、ラジオ等により献血広報活動を実施し、活動記録を「ABOニュース」にまとめた。

【6実施手順】事業実施通知を発出⇒各保健所においてアボちゃんサポーター委嘱

⇒献血意識啓発活動⇒ABOニュースの作成

【7予算額】1,702,000円

【8目標（効果）】将来の献血を支える高校生が献血への理解を深め、ボランティア活動を通じて同世代や地域住民等に献血意識を啓発する。

【9実施に向けた課題】事業に協力してもらえる高校を探すのに苦労している地域（保健所）がある。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （静岡県）夏休みキッズワンダーランド2016

静岡伊勢丹 夏休みキッズワンダーランド

【1目的】小学生の職場体験を中心としたイベントにて献血PR

【2予定内容】①医師、看護師及び血液供給職業体験。

②けんけつちゃんとの記念撮影。

③献血クイズ等

【3実施日・場所（予定）】7月30日～8月2日、静岡伊勢丹

【4対象者】小学生と保護者

【5昨年度実績】約250人

【6実施手順】3月申込。5月～6月資材調整。

【7予算額】0円

【8目標（効果）】献血PR

【9実施に向けた課題】子供だけでなく、保護者や若いファミリー層の方に参加していただき献血に興味をもってもらうこと。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （愛知県）400mL複数回献血キャンペーン

- 【1目的】年間2回以上の400mL献血者を増加させ、安全で良質な血液を安定的に確保する。
- 【2内容】(1)7月から11月に400mL献血をした方に、「けんけつちゃんお約束カード」を配付する。
(2)12月から翌年3月に、「けんけつちゃんお約束カード」を持参の上、再度400mL献血をした方に、キャンペーン限定「ハローキティオリジナルグッズ」を贈呈する。
- 【3実施日・場所】平成27年7月1日から平成28年3月31日まで、愛知県内の献血会場
- 【4対象者】400mL全血献血者

- 【5実施手順】3～5月 グッズ内容についてサンリオと交渉
4～5月 告知用ポスターデザインの作成
5～6月 告知用ポスター・お約束カードの印刷
6月下旬～ 告知開始（献血会場・大手スーパー・事業所など）

【6実施に際して苦労したこと】

キャンペーン効果を最大にするため告知用ポスターにグッズ画像を挿入しているが、ポスターデザインが完成するまでにグッズ内容を決定しなければならず、日程が非常にタイトである。

- 【7来場者】3月までに12,000個のグッズを配付

- 【8効果（評価）】グッズ目当てに献血する方も多く、ハローキティの効果は大きいと感じる。

- 【9問題点】予算が削減され、またグッズの単価が上昇傾向にある中、十分なグッズの確保が難しい。

- 【10今後の課題】限られた予算の中で、サンリオとよりよいグッズについて交渉。

より魅力的なグッズを提供することで、献血者のハートを掴みたい。



↑ H27グッズ（ピンバッジ）



↑ H27ポスター

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】

（愛知県赤十字血液センター）

地域振興活動とのコラボレーションによる若年層献血推進事業

- 【1 目的】 ……若年層が多く集まり、またポップカルチャー発信地としても有名な大須商店街の地域性を生かしたコラボレーションを実施することにより、若年層への献血推進を図ること。年度内に3回のキャンペーン期間を設けることにより、複数回の献血を促すこと。
- 【2 内容】 ……「17歳からはじめるぽぷかる献血習慣キャンペーン」と題し、愛知県主催文化事業「ぽぷかる～愛知ぽぷかる聖地化計画～」とのコラボレーションを行った。全てのキャンペーンで、公式コスプレイヤーを一日出張所長に委嘱、献血呼びかけの実施、関連事業の写真・作品の展示及び献血者へのオリジナル記念品の進呈をした。
- 【3 実施日・場所】
- ①第1弾 7/12～8/31 大須万松寺献血ルーム
内容 献血した方全員に対しポストカードの進呈、更に17～39歳の方にペーパークラフト・ピンバッチを進呈
 - ②第2弾 12/12～1/20 大須万松寺献血ルーム
内容 献血した方へポストカードとピンバッチを進呈
1/10 愛・地球博記念公園
内容 関連イベント会場に献血バスの配車
 - ③第3弾 3/5～3/31 大須万松寺献血ルーム
内容 献血した方へポストカードとピンバッチを進呈
- 【4 対象者】 ……若年層を中心としたポップカルチャーに関心の高い世代
- 【5 実施手順】 …… 1. 献血推進団体と期間、イベント内容、ポストカード図案などの打合せ
2. ポスターやホームページ、フェイスブック及びツイッターを用いた情報発信
3. イベント・キャンペーン実施
- 【6 実施に際して苦労したこと】 ……献血推進団体のホームページやツイッターでも情報発信されるため、イベント内容、採血基準などに齟齬がないよう留意すること。
- 【7 来場者】 ……大須万松寺献血ルームでの受付人数
第1弾 2,729名 第2弾 2,164名 第3弾 1,362名
(昨年度同時期 2,655名 1,957名 1,209名)
献血バスでの受付人数 61名
- 【8 効果】 ……各キャンペーンでの受付人数の増加に加えて、採血人数も対前年比110%以上となった。
- 【9 反省点】 ……実施に際し、出張所推進担当が準備にかかりきりになってしまった。
- 【10 今後の課題】 ……キャンペーン担当チームを組織し、複数の職員で分担して準備を行う体制作り。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (愛知県)夏休み親子血液教室

【1目的】**親子**で血液の大切さを学びながら、献血について触れる機会とする。

【2予定内容】教材などの配布(**子ども、保護者の両方**に)、献血啓発DVDの上映、
血液おもしろゼミナール(血液のお話)、**学生ボランティア**によるクイズ、
血液センター見学・記念撮影、**血液型判定**、記念品贈呈

【3実施日・場所(予定)】平成28年8月 愛知県赤十字血液センター始め県内2か所で3日間

【4対象者】県内の**小学4、5、6年生**及びその保護者

【5昨年度実績】平成27年8月18、25、26日に開催

参加者**323人**

(子ども188人、保護者135人)

↓ H27の様子(血液センター見学)



↓ H27の様子(血液型判定)



【6実施手順】(1)5～7月 告知リーフレットの印刷

(2)7月 告知リーフレットの配布 ・開催市教育委員会を通して、小学校で配布
・保健所、市町村の窓口での配布

(3)7～8月 資材の購入(記念品、血液型判定キットなど)

【7目標(効果)】親子220組の参加

【8実施に向けた課題】効果的な告知のために**小学校での配布**が必要なので、市教育委員会等に
学校での配布について承諾を得る。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】(愛知県赤十字血液センター) 【献血推進キャラクター(愛知県の人気ユニット)とのコラボによる若年層献血推進活動事業】

【1 目的・8 目標】 ……若年層への献血啓発と献血協力
イベント開催会場におけるバス1稼動当たり採血単位数100単位の確保。

【2 予定内容】 ……若年層献血推進の為にイベントの実施。ステージおよび音響の設置、当日の献血協力者へ献血処遇品の進呈を予定している。

・愛知県学生献血連盟主催の献血キャンペーンのステージにて年3回のキャンペーンの実施。
(東海北陸ブロック統一学生サマー献血キャンペーン・全国学生クリスマス献血キャンペーン・学生スプリング献血キャンペーン)

キャンペーンでは、地元FM局ZIP-FMのミュージックナビゲーター磯谷祐介氏(献血推進リーダー)活動する「OS☆U」によるライブ及び献血啓発内容を含めたトークショー、並びに愛知県学生献血連盟の学生の出演も依頼予定。

プロフィール

磯谷祐介 地元名古屋のZIP-FMのナビゲーターとして若者を中心に影響力が大きく、自らも数十回と献血に協力をしている。

OS☆U 名古屋大須のご当地アイドルとして名古屋を中心に活躍し、若者からの支持が大きい。

・ショッピングモール内のステージにて年2回のキャンペーンの実施

・はたちの献血キャンペーンを実施するにあたり、学生献血連盟の学生のステージパフォーマンスを依頼予定。

【3実施日・場所(予定)】……学生献血キャンペーン(3回) 県内ショッピングモール(2回)
平成28年8月 ～ 平成29年3月

【4 対象者】 ……若年層献血者

【5 昨年度実績】 ……愛知県学生献血連盟主催の献血キャンペーンで、受付462名、400mL283名の協力を得た。

【6 実施手順】 …… 1. 会場の確保
2. イベント内容の調整
3. 業者によるステージ設置
4. 各報道機関へのニュースリリース

【7 実施に向けた課題】 ……献血啓発の中で、400mL献血の必要性についても理解を得て、400mL献血率の向上を目指すこと。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】

三重県 「ヤングミドナサポーター制度」

【1目的】地域や学校等における献血啓発活動へ参加し、ボランティアとしての社会参加を体験するなかで、命の尊さや思いやりの心を育ててもらうとともに、献血の大切さを理解してもらうことを目的としています。

【2主な活動内容】

- (1) 各地域で実施する献血啓発活動への参加(通年)
- (2) 高等学校文化祭等における献血啓発活動の実施(通年)
- (3) 三重県赤十字血液センターの見学(7月)
- (4) 高校生献血推進会議への参加(9月)
- (5) 模擬献血等への参加(12月)

【3実施日・場所】 1年間を通じて活動

【4対象者】 高等学校、大学ならびに各種専門学校等の学生

【5実施手順】 各地域や学校等において、献血啓発活動に参加いただく献血ボランティアを広く高校生等から募集し、「ヤングミドナサポーター」として委嘱

【6実施に際して苦労したこと】 ヤングミドナサポーター制度の県内各学校等への周知

【7予算額】 771,429円

【8効果(評価)】 平成27年度は、704名(過去最高人数)を委嘱

【9改善点】 平成26年度から、より自発的に献血について考えていただく機会として、高校生献血推進会議を開催。また、平成27年度からは、ヤングミドナサポーターを対象とした模擬献血を実施

【10今後の課題】 活動範囲の拡大及び、ヤングミドナサポーター在籍高校への献血バスの導入

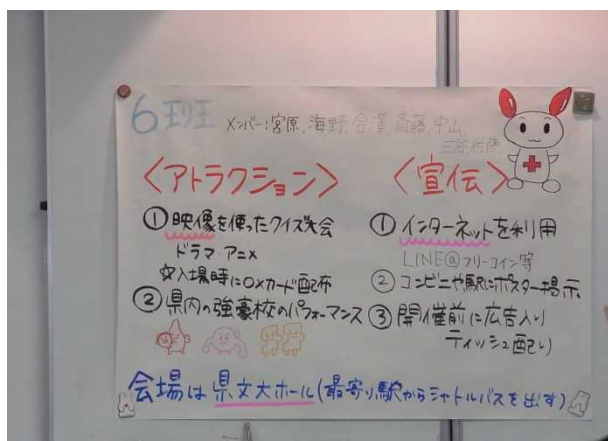


【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】

三重県「ヤングミドナサポーター制度」

平成27年度高校生献血推進会議

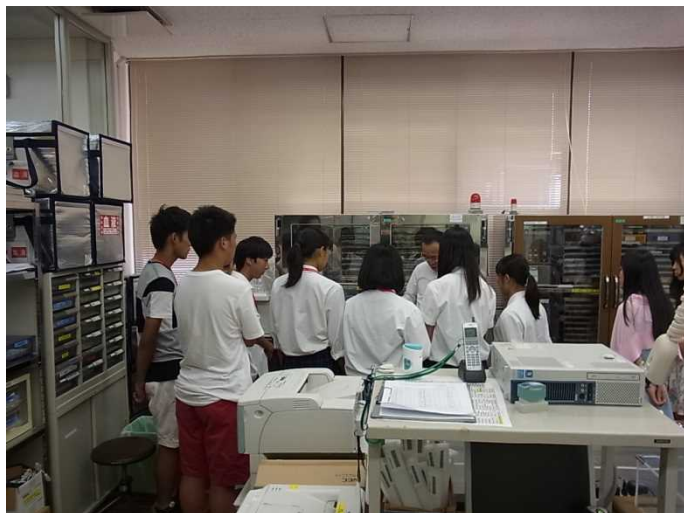
1. 日時 平成27年9月12日(土)
2. 場所 三重県赤十字血液センター
3. 参加人数 29名
4. 内容
 - (1) 13時30分～13時40分 開会の挨拶
 - (2) 13時40分～14時10分 献血についてのセミナー
 - (3) 14時10分～14時20分 献血推進会議についての説明
 - (4) 14時20分～14時30分 休憩
 - (4) 14時30分～15時50分 各班に分かれて討論
議題:「三重県献血功労者表彰式におけるイベント内容について」
 - (5) 15時50分～16時20分 発表
 - (6) 16時20分～16時30分 総評、挨拶



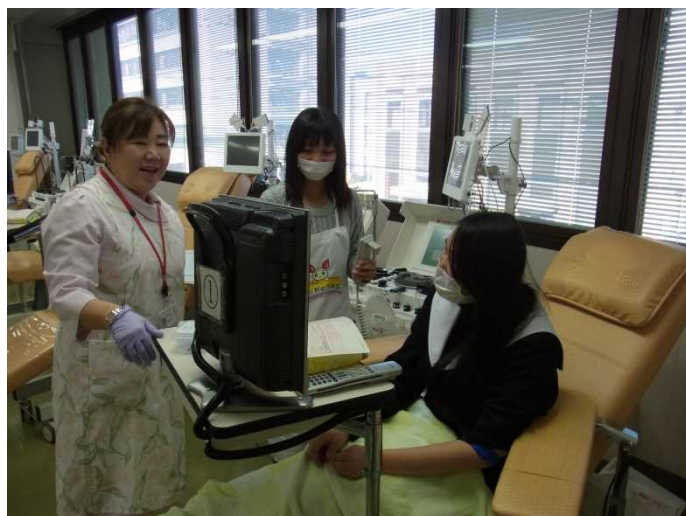
会議終了後の感想

- ・高校生目線の意見がいっぱい出て良かった。
- ・他校の生徒さんと献血について深く考えられてとても楽しかった。
- ・献血の必要性が分かってよかった。
- ・献血はまだ出来ないが、協力できることが嬉しかった。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県「ヤングミドナサポーター制度」



血液センター見学会



模擬献血の様子



ミドナ通信 三重県献血ミドナサポーター 2015年春号

献血で わたしの元気 届けたい！

平成27年2月27日 三重高校で卒業献血が実施されました！

卒業記念に 献血しよよ 実行委員会 三重県赤十字血液センター 三重県献血ミドナサポーター 三重県献血推進委員会

2月27日に三重高校にて卒業献血が実施されました。生徒の皆さんをはじめ、教職員の方々にご協力いただき誠にありがとうございました。当日は、「献血って何？」「献血・輸血の現状は？」「献血した血液はどうなる？」などのポスターを掲示するなど、啓発にも力を入れていただきました。今後とも、血液の安定供給のために、ご協力をお願いします。

三重県赤十字 血液センター 見学会

① あいさつ
② 三重県赤十字血液センター職員による献血の大切さ「知って得る？献血」
③ DVD鑑賞「アンパンマンのエキス」
④ 三重県赤十字血液センター施設見学
・献血ルーム
・血液の冷凍庫
・供給線
・献血バス見学と撮影会

平成26年7月28日に開催された「三重県赤十字血液センター見学会」には、午前18時、午後5時のヤングミドナサポーターが参加し、献血の大切さを学びました。

七夕の飾り付け (7月5日) クリスマスの飾り付け (11月22日)

三重県赤十字血液センター内の飾り付けや、街頭献血啓発資料の準備を行いました。

ミドナ通信

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「高校生による献血バス 背面広報パネルへのデザイン制作」

- 【1目的】 深刻化する若年層献血者の減少を防止するために、若年者への献血の必要性・重要性を普及啓発し、献血バスへの愛着感・親近感の醸成を図る
- 【2内容】 高校生による献血バス背面広報パネルへのデザイン制作
- 【3実施日・場所】 平成27年9月～平成28年1月 三重県立飯野高等学校(制作期間、場所)
- 【4制作者】 同校応用デザイン科の生徒
- 【5実施手順】 応用デザイン科の先生を通じ、生徒に制作を呼び掛けた
- 【6実施に際して苦労したこと】 同デザイン科には県内企業等からデザイン依頼が多数あること
- 【7予算額】 約22,000円(制作絵具 11,000円 雨防止フィルム 約5,000円 感謝状等6,000円)
- 【8効果(評価)】 鈴鹿ライオンズクラブの協賛及び、報道機関からの取材、新聞掲載もあった
- 【9問題点】 デザイン依頼が多数寄せられる同校であるために、デザイン制作が一人であった
- 【10今後の課題】 3台の献血バスには、白板の背面広報パネルがあることから、県内の他のデザイン関連の高校へ制作を依頼し、献血推進を図る必要がある

〈表彰式等の様子〉



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「高校生による献血バス 背面広報パネルへのデザイン制作」

＜献血バス 広報パネル＞



新聞記事（平成28年2月6日付中日新聞）



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「高校生による若年者層向け 献血推進用DVDの制作」

- 【1目的】 三重県の10代の献血者数は、10年前と比較し約1/3になっており若年者の献血減少が深刻な問題となっていることから、高校生の視点による献血協力を呼びかけるDVDを制作し、同年代への献血の参加促進を図る
- 【2内容】 高校生による献血推進用DVDの制作し、高校献血セミナー等で活用を図る
- 【3実施日・場所】 平成27年7月～平成28年3月 私立桜丘高等学校(制作期間、場所)
- 【4制作者】 同校放送部の生徒
- 【5実施手順】 放送部の先生を通じ、生徒に制作を依頼
- 【6実施に際して苦労したこと】 遠方への取材を行ったこと
- 【7予算額】 約100,000円(制作費等)
- 【8効果(評価)】 報道機関からの取材(新聞社 3社、地元FM局 1社)
- 【9反省点)】 学校の授業を終えてからの取材を多数していただいたこと
- 【10今後の対応方針)】 県教育委員会等と協力している高校献血セミナー等で利用する
〈表彰式等の様子〉



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「高校生による若年者層向け 献血推進用DVDの制作」



制作したDVDを鑑賞する高校生

表彰式の様子

(取材 中日新聞、読売新聞、毎日新聞
FM三重 4社が来校)



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「高校生による若年者層向け 献血推進用DVDの制作」

毎 日 新 聞
2016年(平成28年)3月17日(木)

三重県最下位脱出へ!!

若者目線で献血DVD

【伊賀】 伊賀市は伊賀市・神戸の放送部が、高校生と協力して、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。同校であった、献血推進部員、山崎さん(1年)は、命を救う、献血が、三重県最下位脱出へ、と、若者目線で、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。

「本気で、若者目線で、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。」

「16歳からできること知って」



若者が献血を呼びかけるDVDについて語り合う
——伊賀市下神戸で

伊賀市下神戸の放送部が、高校生と協力して、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。

新聞記事 (平成28年3月17日付毎日新聞)

2016年(平成28年)3月29日(火曜日)

体験映像「勇気が誰かを救う」

桜丘高の放送部 献血啓発DVD

【伊賀】 伊賀市下神戸の放送部が、高校生と協力して、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。

「本気で、若者目線で、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。」

「16歳からできること知って」



若者インタビューも

伊賀市下神戸の放送部が、高校生と協力して、献血推進用のDVDを制作し、16日、伊賀市赤十字血液センターで、その制作過程を公開した。

新聞記事(平成28年3月29日付読売新聞)

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「冬休み親子献血教室」

- 【1目的】 将来の献血者の基盤構築を図るために、小中学生を対象に献血への必要性・重要性を周知し、またその保護者に対しても献血への理解と協力を依頼
- 【2内容】 献血クイズ、施設見学、献血バスとの綱引き、けんけつちゃんとの記念撮影など
- 【3実施日・場所】 平成27年12月25日 10時～12時 三重県赤十字血液センター内
- 【4参加者】 9組 27名の親子
- 【5実施手順】 参加者全員によるクイズを始め、2班に分かれての施設見学等を実施
- 【6実施に際して苦労した事】 ホームページ、LINE、津市広報誌で募集したが参加者が少数であった
- 【7予算額】 約30,000円(来場記念品 めいぐるみ、綱引きロープレンタル代)
- 【8効果(評価)】 報道機関からの取材(三重テレビ、中日新聞社、地元FM局 計3社)
同夕刻には、三重テレビで親子献血教室の様子が放映された
- 【9反省点)】 多数の内容を計画したことから、時間の制限があった
- 【10今後の対応方針)】 県主管課に依頼し県の広報誌等で多数の参加者を募集する
〈親子献血教室の様子〉 Crokuma くろくま・めいぐるみ(日赤オリジナル品)



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「冬休み親子献血教室」

新聞記事（平成28年1月5日付中日新聞）

2016年(平成28年)1月5日(火曜日)

三重県 津市

献血に理解深めて
津で親子教室
若い人の献血への関心を高めてもらうようと、津市桜橋の県赤十字血液センターで、親子を対象にした献血教室があった。



十代、二十代の若年層の献血者数が減少しており、将来の献血者確保につなげようと、年に数回親子教室を開いている。

この日は、園児から中学生までの子どもたちと保護者計二十七人が参加。職員に血圧や血管の太さを計ってもらったり写真、献血している人の様子を見学したりして理解を深めた。最後には、子どもたちが献血バスと綱引きをする催しもあった。

(黒藪香織)

献血バスとの綱引きの様子
初の試みの綱引きは、子供たちの「楽しい」との声から 3回も行いました！！



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】

三重県「三重県献血功労者表彰式」

【1目的】 献血運動推進について著しく功績のあった方や血液の確保について多大な貢献のあった方を表彰することにより、その功績に感謝を示すとともに、献血思想の普及と献血意欲の高揚を図ることを目的として開催

【2予定内容】 第1部式典、第2部アトラクション(平成27年度より2部構成に変更※)

【3実施日・場所(予定)】 平成28年8月2日(火) 三重県総合文化センター小ホール

【4対象者】 被表彰者及び一般参加者(平成27年度より一般の方にも参加頂ける形に変更)

【5昨年度実績】 122人(内、被表彰者74名)

【6実施手順】 三重県、日本赤十字社三重県支部及び三重県赤十字血液センターの共催

【7予算額】 約600,000円

【8目標(効果)】 前年度以上の来場者数

【9実施に向けた課題】 来場者数の増加(特に、若年者)を図るための広報と周知の工夫

第2部【アトラクション】の内容

- (1) 三重県学生献血推進連盟「みえっち」活動報告等
- (2) DVD上映「赤い血がニッポンを動かしている」
- (3) 伊勢高校献血セミナーでの高校生インタビューの視聴
- (4) アトラクション「ミス・サリバンによるジャグリングショー」
- (5) 閉会のことば(第2部)



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 三重県赤十字血液センター「キッズ献血」

- 【1目的】 献血年齢に満たない年齢層へ献血に関する普及啓発、命の大切さの理解を図る
- 【2予定内容】 献血の疑似体験を通じて、献血の様子や流れを理解する体験教室
- 【3実施日・場所(予定)】 平成28年3月(日程、場所は未定)
- 【4対象者】 3歳以上
- 【5昨年度実績】 来場者約160人、献血結果・・受付者数79人、採血者数70人
- 【6実施手順】 三重県学生献血推進連盟「みえっち」を中心にイベントの企画運営等を検討
集客力を高めるために、教育委員会等を通じ会場予定の保育園、幼稚園
小学校を対象にチラシの配付
- 【7予算額】 約500,000円
- 【8目標(効果)】 前年度以上の来場者数及び、実献血者数の増加を図る
- 【9実施に向けた課題】 将来に向けた献血への理解を深めるために、保護者とともに来場者数
の増加を図るための広報と周知の工夫



平成27年度に取り組んだ献血推進事業について 【滋賀県】「平成27年度愛の献血感謝のつどい」

【1目的】献血の推進に特に功績のあった団体・個人に対し表彰状を伝達・贈呈することにより、その功績をたたえるとともに献血の重要性について認識を深め、もって本県における献血事業の一層の推進を図ることを目的として、毎年7月の下旬に滋賀県愛の血液助け合い運動の一環として実施している。

【内容】献血の推進に特に功績のあった団体・個人に対し表彰状を伝達・贈呈。記念講演。

【実施日】平成27年7月28日(火)

【実施場所】栗東芸術文化会館さくら 中ホール(滋賀県栗東市糺2丁目1番28号)

【対象者】一般県民、ボランティア団体、事業所等献血担当者、日赤奉仕団、および市町・各保健所献血担当者など

【実施に至る手続き(手順)】滋賀県、日本赤十字社滋賀県支部、滋賀県赤十字血液センターおよび滋賀県献血協会の主催で、日程および会場の調整を行い、関係者への参加者照会および報道機関へ資料提供を行い参加者を集めた。

【予算】600千円(献血協会に対する補助金)

【集客】324人

【苦労したこと】4者の連絡調整

【効果(又は評価)】表彰状の伝達・贈呈を公開の場で行うことで、受賞者の励みにつながり、献血事業の推進に効果があった。

【改善点(又は問題点又は反省点)】若い方の参加が少なかった。

【今後の課題(又は今後の対応方針)】会場ロビーに献血推進ポスターコンクール(高校生対象)の応募作品を展示する。(平成29年度より)

【同事業を行う場合のポイント】日本赤十字社および血液センターと連携することで、予算および人的資源について、それぞれの負担を軽減できる。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 【滋賀県赤十字血液センター】「献血フェス2015」

【1目的】

近年急速に加速する少子高齢化によって、将来の献血者確保が危ぶまれていることから、県内草津市の高校生を対象に献血の知識を身につけて頂くと共に、献血の啓発を目的とした。

【2内容】

①献血セミナー

血液センターの紹介、献血の基礎知識、滋賀県の献血状況、献血クイズ

②グループワーク

献血ポスターの作成

③立命館大学生によるアカペラコンサート・マジックショー

④参加高校生の交流会

【3実施日・場所】 平成27年11月1日（日） 琵琶湖汽船「ビアンカ」船内

【4対象者】 滋賀県草津市内の高等学校に通う高校生

【5実施手順】

平成27年4月にプロジェクトが始動し、プロジェクトメンバーを結成した。5月より内容の精査及び協力団体への依頼を開始し、10月末に献血セミナーの社内リハーサルを行った。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】

【滋賀県赤十字血液センター】「献血フェス2015」

【6実施に際して苦勞したこと】

草津市内高校生の乗船希望者の確保

一般の方への広報は一切せず草津市内の高等学校へ直接出向き、学校単位で希望者を募った。また、未成年であることから基本的に先生の同行もお願いした。しかし、学校の行事や休日ということもあり、希望者がなかなか集まらなかった。

【7経費】

演者交通費 : 40,000円

ボランティア保険 : 5,600円

ポスター製作に係る事務用品費 : 20,000円

船貸切料金 及び その他経費 : 583,000円

合計 : 648,600円

【8参加者】

高校生 : 男子学生 10名 女子学生 57名

ボランティア学生 : 18名

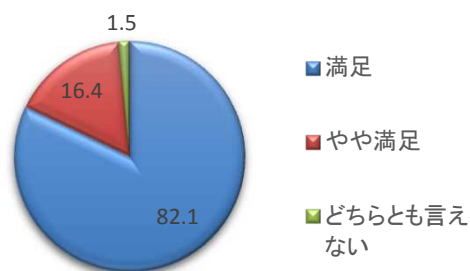
計 85名

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 【滋賀県赤十字血液センター】「献血フェス2015」

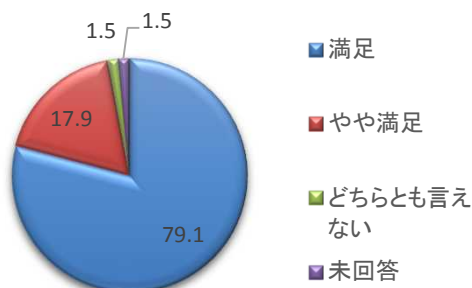
【9アンケート結果】

乗船していた学生にアンケートを実施した。結果は以下のとおり。

イベント全体を通して満足して
いただけましたか？(%)



イベントの内容はどうでしたか？(%)



今後献血をしたいと思
いましたか？(%)



【10反省点】

①乗船希望者の確保

高校生の予定が合わず、参加者の確保に苦労した。

②献血セミナー

リハーサル時期が遅くなり、手直し作業が本番の直前までかかってしまった。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 【滋賀県赤十字血液センター】「献血フェス2015」

【11今後の課題】

高校生に対して献血セミナーをすることにより、献血の知識を知ってもらい、後日数名の学生が献血に協力してくれたが、たくさんの献血者を確保することが出来なかった。今後は実際に献血に来てもらえるようなキャンペーンを考えていく。

【12当日の様子】



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】

【滋賀県】献血推進ポスターコンクール

【1目的】10代の高校生にポスター制作を通じて献血への理解を深めてもらう

【2予定内容】滋賀県内に在住または通学をしている高校生を対象に、献血推進ポスターコンクールを実施。賞には最優秀賞、優秀賞、佳作を設け、最優秀賞の作品は次年度の啓発資材のイラスト等に用いる。

【3実施日・場所(予定)】応募〆切 平成28年9月16日(金)予定
表彰式 県庁で実施予定

【4対象者】滋賀県内に在住または通学をしている高校生

【5昨年度実績】平成28年度新規事業

【6実施手順】5月頃、募集要項作成。6月頃、県の教育委員会を通じて、県内の高校1年生の全クラスに募集チラシを配布。10月中旬頃に表彰審査会開催。12月頃に表彰式を実施。1月～2月に入選作品の展示会実施。

【7予算額】76千円

【8目標(効果)】チラシ兼募集要項に、献血の現状や、献血ルームの案内等を記載し、県内全高校1年生へ配布することで、若年層献血の啓発を図る。また、優秀作品を啓発資材のイラストに活用することで、若い世代へ効果的に献血をアピールすることができる。

【9実施に向けた課題】関係者との調整。展示場所の確保。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】

【滋賀県赤十字血液センター】「赤十字キッズフェスティバル2017」

【1目的】

近年の少子高齢化による献血可能人口の減少、血液使用量の増加に伴い若年層献血の確保が喫緊の課題となっていることから、小学生時代から「いのちの大切さ」や「献血の重要性」を理解していただくことを主たる目的とする。

【2予定内容】

- ①スタンプラリーの実施
- ②日本赤十字社滋賀県支部による『非常食体験』
- ③移動採血車・緊急車見学
- ④保護者による献血

【3実施日・場所(予定)】

日 程:平成29年2月頃

場 所:滋賀県赤十字血液センター



(新築後3年目となった滋賀県赤十字血液センター)

【4対象者】

県内の小学生・未就学児を対象とする。

【5昨年度実績】

来場者数: 大人196人
 子供241人 計437人
 献血者数: 受付86人
 採血75人

年代別献血者数	(人)
10代	2
20代	4
30代	15
40代	28
50代	15
60代	11

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】

【滋賀県赤十字血液センター】「赤十字キッズフェスティバル2017」

■血液保管庫見学

血液保管庫	(人)
10:00	19
10:30	20
11:00	20
12:15	20
12:45	18
13:15	21
13:45	24
14:15	4
合計	146



■キッズ献血

キッズ献血	(人)
9:45	3
10:30	10
12:15	10
13:00	10
13:45	10
合計	43



【6実施手順】

平成28年11月

平成28年12月

平成29年1月

プロジェクトメンバー選定

イベント内容決定

センターに隣接する大津市・草津市の小学校にビラ、ポスターを配布。また、同地域に折込チラシを入れる。血液センターホームページに掲載。

ニュースリリースにて周知を図る。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】

【滋賀県赤十字血液センター】「赤十字キッズフェスティバル2017」

【7予算額】

物品レンタル料	300, 000円
ボランティア交通費	80, 000円(2, 000円×40人)
講師料	20, 000円
参加者記念品	100, 000円(250円×400人)
合 計	500, 000円

【8目標(効果)】

- ①将来の献血者となる小学生・未就学児に「命の大切さ」「献血の重要性」を理解してもらう。
- ②来場者からの献血協力。
(昨年度は、血液保管庫見学・キッズ献血参加者の保護者から多数献血協力があつた。)

【9実施に向けた課題】

- ①昨年度、血液保管庫見学・キッズ献血が完全予約制となっており、両方参加できない方がいたため時間調整が必要。
- ②参加者に対してアンケートが70枚しか回収できておらず工夫が必要。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （京都府）学生食堂とのコラボ企画～献血×学食～

【1目的】大学内において長期の広報を行い、若年層献血者確保を図る。
学生が多く集まる食堂にて、メニューや卓上POP等を用いた啓発を行う。

【2内容】①オリジナルメニューの提供
②学食内での広報（ポスター掲示、卓上POP設置等）

【3実施日・場所】平成27年6月（龍谷大以外5校）、10月（龍谷大）
京都大学、京都教育大学、京都府立医科大学、
京都府立大学、京都橘大学、龍谷大学

【4対象者】大学生（合計学生数 23,937人）



【5実施手順】11月：各大学へ企画提案、実施内容及び日程の調整
4月：メニューの選定、広報資材作製

【6実施に際して苦労したこと】各大学の規模や方針に合わせた調整

【7予算額】237,570円（広報資材作製費等）

【8来場者】658人（学食企画実施期間中の学内献血者数）

【9効果（評価）】

費用に対し広告効果が高く、学内献血には有効である。龍谷大学では学生（生協学生員会）が主体となって企画を進めてくれたため、学生を巻き込んだ献血広報が実施できた。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】

献血ルームへの誘導ができなかったことから、「初回はバス、次回以降はルームで」という誘導方法を来年度に取り入れたい。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】

実施2年目を迎えて企画がマンネリ化しているため、内容を発展させる必要がある。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （京都府）学校関係者向け献血に関する講習会

【1目的】献血者数が減少傾向にある若年層への啓発の一環として、学校関係者に対する献血に関する講習会を行うことにより、献血に関する理解を深め一層の推進を図る。

【2内容】(1) 高校で開催している献血セミナーのデモンストレーション

京都府赤十字血液センター 献血課 澤村 大 氏

(2) 若年層に対する献血推進の取組について

京都府学生献血推進協議会 市橋佳奈 氏 他

【3実施日・場所】（南部会場）平成27年10月15日（木）13時30分～16時

メルパルク京都（京都市中京区）

（北部会場）平成27年10月23日（金）13時30分～16時

福地山市立中央公民館（福知山市）

【4対象者】府立高等学校の学校関係者（養護教諭等）

【5実施手順】27年4月から府教育庁と事前調整し、日程等を決定

27年6月に、講師等決定、8月上旬に国と委託契約、開催案内の送付

【6実施に際して苦労したこと】教育庁との事前調整、参加者の確保

【7予算額】199,000円（国10／10）

【8来場者】31名

【9効果（評価）】高校での献血セミナー実施につながった。献血に対する理解が得られた。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】業務多忙な教員に会場まで足を運んでもらうことが難しい。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】参加された教員からはよい意見が寄せられているため、献血の必要性を教員に負担をかけない方法で伝えられる方法を再考しなければならない。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (京都府)アニメ「響け!ユーフォニアム」コラボ企画

【1目的】若年層世代を中心としたアニメファンの献血者確保及び献血啓発

【2予定内容】劇場版「響け!ユーフォニアム」の上映に合わせ、献血協力でコラボ記念品進呈。

【3実施日・場所(予定)】

第1期:平成28年4月23日(土)～5月8日(日)

第2期:平成28年9月(※予定。アニメ第2期の放映に合わせる)

京都府内全献血会場で実施

【4対象者】10～30代のアニメファン

【5昨年度実績】なし

【6実施手順】

3月:記念品(オリジナルクリアファイル2種類)作製

4月:告知活動(WEB、映画館、アニメショップ等)

【7予算額】

297,000円(税込)

【8目標(効果)】

- ・10～30代の新規献血者500人を確保目標とする。
- ・記念品進呈期間を2期(第1期:平成28年4月23日(土)～5月8日(日)、第2期:平成28年9月※予定。アニメ第2期の放映に合わせる)設定し、それぞれ違う記念品を進呈することで、複数回献血を誘導する。

【9実施に向けた課題】

アニメコラボ企画は初試みのため、アンケートを実施し、献血者の動向等を検証する。



【クリアファイル2種類】



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (大阪府)高校生による献血街頭キャンペーン

一人でも多くの若者に献血の大切さを知ってもらい、また献血にご協力していただけるよう、若者の目にもとりやすく、口コミやネットワーク等での啓発効果も期待できるため、高校生による献血キャンペーンを実施している。

【1目的】……将来の献血を担う高校生に、啓発活動に参加していただき、献血への意識を高める。

【2内容】……高校生が献血の協力を呼びかける。

【3実施日・場所】……平成27年12月16日(まいどなんば献血ルーム前・御堂筋献血ルーム前)
平成28年2月16日(近鉄大阪難波駅東改札口前)

【4対象者】……通行者



【5実施手順】……府内各高等学校に直接依頼し、大阪府血液センター又は(株)近鉄と連絡調整し実施した。

【6実施に際して苦労したこと】……高校行事と重ならないよう日程調整を行い、参加高校生を集める点

【7予算額】……20,000円(ボランティア保険代)

【8来場者】……約3,000人(啓発品配付数)

【9効果(評価)】……高校生が呼びかけを行ったため、若者の関心を集める事ができた。
キャンペーン参加者が終了後、献血をした。

【10改善点】……平日の昼間にキャンペーンを行ったため、通行者が少ない時間帯もあった。
他の記事との兼ね合いで、両日とも新聞等に取り上げてもらう事ができなかった。

【11今後の課題】……さらに多くの高校生の参加者を集め、効率よく効果的に啓発キャンペーンを実施する。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）献血おもしろゼミナール

- 【1目的】・・・愛の血液助け合い運動の一環として、献血年齢に満たない小学生に献血の重要性や血液センターの役割への理解を深めてもらい、将来の献血協力につなげることを目的とするとともに、夏休みの宿題（自由研究）を応援する。
- 【2内容】・・・* アニメーションを使用したスライドを用いて、血液センターの仕事や献血、血液に関する説明。
* 施設見学
* オリジナル缶バッジ作製イベント
- 【3実施日・場所】・・・平成27年8月3日、5日、7日各日2回合計6回開催・血液センター内
- 【4対象者】・・・小学生（主に3～6年生）〈18歳以上の保護者同伴〉
- 【5実施手順】・・・血液センター近隣区の小学校校長会に出席し、告知用ポスターの掲示とチラシの配布を依頼。大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会への後援名義申請。HP、けんけつE倶楽部、契約ラジオの番組で告知、市区町村広報紙などへ情報を提供し掲載を依頼する。参加申込みは事前電話予約とする（平成27年度予約ダイヤル入電件数・・・1,674件）。
- 【6実施に際して苦労したこと】・・・事前電話予約自体は業者委託しているが、キャンセルが出た場合の繰り上げ当選連絡は職員で行っているため、連絡や参加のための日程調整など苦慮した。
- 【7予算額】・・・1,845,000円（告知等費用：290,000円、参加記念品：800,000円、処遇用飲料：85,000円、事務用品：100,000円、参加者保険料：20,000円、電話受注委託費：550,000円）
- 【8来場者】・・・子供286名、保護者186名、合計472名が参加（平成25年度は542名）

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）献血おもしろゼミナール

【9効果（評価）】・・・アンケートを実施した保護者のうち、今まで献血に関心が無かった又は献血したことがなかった方のうち約90%がこの見学会に参加して今後献血してみようと思われた。また、100%の方が今後もこのような見学会は必要と感じられた。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】・・・第51回献血運動推進全国大会の開催や、新たなイベントの開催で日程調整に苦慮し、実施回数が昨年に比べ減少してしまった。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】

19年実施しており、内容がマンネリ化していく中で、平成24年度からはブロック化に伴い製剤・検査の見学ができなくなったこともあり、更に充実した内容にするための方策が必要である。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）けんけつE倶楽部健康相談事業

【1目的】・・・複数回献血クラブ“けんけつE倶楽部”会員の健康促進を目的としたイベント

【2内容】・・・ノルディックウォーキング教室【1回／4回】（平成27年11月14日雨天中止）

【3実施日・場所（予定）】・・・平成27年6月13日（土）・大阪センター～大阪城公園

【4対象者】・・・けんけつE倶楽部会員と同伴者（1人まで）

【5実施手順】・・・事前にメール配信で応募を募る⇒当選者にメール配信

当日：センター駐車場にて、ウォーミングアップとノルディックウォーキング練習をし、大阪城公園を歩き、センター駐車場にてクールダウン。

【6予算額】・・・約40,000円（インストラクター代＝1人、参加者保険料等）

【7来場者】・・・参加人数 31人、当選人数 46人、応募人数 98組（応募人数は2人以内）

【8効果（評価）】・・・アンケート結果：大変良かった 20人、良かった 11人

【9問題点】・・・可能な限り、連続当選者を外しているが、当選されない方が多くおられる。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）けんけつE倶楽部健康相談事業

【1目的】・・・複数回献血クラブ“けんけつE倶楽部”会員の健康促進を目的としたイベント

【2内容】・・・ノルディックウォーキング教室【2回／4回】（平成27年11月14日雨天中止）

【3実施日・場所（予定）】・・・平成27年9月5日（土）・大阪センター～大阪城公園

【4対象者】・・・けんけつE倶楽部会員と同伴者（1人まで）

【5実施手順】・・・事前にメール配信で応募を募る⇒当選者にメール配信

当日：センター駐車場にて、ウォーミングアップとノルディックウォーキング練習をし、大阪城公園を歩き、センター駐車場にてクールダウン。

【6予算額】・・・約40,000円（インストラクター代＝1人、参加者保険料等）

【7来場者】・・・参加人数 29人、当選人数 41人、応募人数 5698組（応募人数は2人以内）

【8効果（評価）】・・・アンケート結果：大変良かった 19人、良かった 7人、普通 1人

※女性2人途中退場

【9問題点】・・・可能な限り、連続当選者を外しているが、当選されない方が多くおられる。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）けんけつE倶楽部健康相談事業

【1目的】・・・複数回献血クラブ“けんけつE倶楽部”会員の健康促進を目的としたイベント

【2内容】・・・ノルディックウォーキング教室【3回／4回】（平成27年11月14日雨天中止）

【3実施日・場所（予定）】・・・平成28年3月5日（土）・大阪センター～大阪城公園

【4対象者】・・・けんけつE倶楽部会員と同伴者（1人まで）

【5実施手順】・・・事前にメール配信で応募を募る⇒当選者にメール配信

当日：センター駐車場にて、ウォーミングアップとノルディックウォーキング練習をし、大阪城公園を歩き、センター駐車場にてクールダウン。

【6予算額】・・・約40,000円（インストラクター代＝1人、参加者保険料等）

【7来場者】・・・参加人数 33人、当選人数 49人、応募人数 9098組（応募人数は2人以内）

【8効果（評価）】・・・アンケート結果：大変良かった 23人、良かった 10人

【9問題点】・・・可能な限り、連続当選者を外しているが、当選されない方が多くおられる。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）けんけつE倶楽部健康相談事業

【1目的】・・・複数回献血クラブ“けんけつE倶楽部”会員の健康促進を目的としたイベント

【2内容】・・・ウォーキング講座【2回／1回】（2回1セット講座）

【3実施日・場所（予定）】・・・平成27年8月23日（日）9月20日（日）・大阪センター・7階研修室 I

【4対象者】・・・けんけつE倶楽部会員

【5実施手順】・・・事前にメール配信で応募を募る⇒当選者にメール配信

当日：センター会議室にて講座。

【6予算額】・・・約32,000円（インストラクター代＝1人）×2回

【7来場者】・・・参加人数 18人(8/23)-17人(9/20)、当選人数 23人、応募人数 98人

【8効果（評価）】・・・アンケート結果：大変良かった 14人、良かった 3人（最終日で調査）

【9問題点】・・・当選者が少ないため、当選されない希望者が多くおられる。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （大阪府）けんけつE倶楽部講演会

【1目的】・・・複数回献血クラブ“けんけつE倶楽部”会員の心の健康を考えた映画鑑賞会を開催し、より会員の充実を図った催しとする。

【2内容】・・・けんけつE倶楽部 映画鑑賞会『ギャラクシー☆街道』

【3実施日・場所(予定)】・・・平成27年11月21日(土)・TOHOシネマズ 梅田 8スクリーン(154席)

【4対象者】・・・けんけつE倶楽部会員と同伴者(1人まで)

【5昨年度実績】・・・第1部 『iPS細胞と献血』 講演:京都大学 iPS細胞研究所 木村 貴文 教授
第2部 歌手『さあさ』 音楽ライブ

【6実施内容】・・・ ① DVD鑑賞『けんけつセミナーDVD いのちをつなぐ献血』

② 挨拶 白髭献血推進一部長

③ 献血の現状 辻登録課長

④ 映画鑑賞会『ギャラクシー☆街道』

【7予算額】・・・ 総合計 570,040 円

会場費 540,040 円(貸切上映日・映写施設使用料金等)

営業管理費 30,000 円

【8来場者】・・・ 出席者数 104人、参加予定者数 150人、応募数 1,724組(応募人数は2人以内)

【9効果(評価)】・・・ 上映作品の人气が映画鑑賞会の出席率に影響した。 アンケート回収 104人
大変良かった 63人、良かった 32人、普通 6人、良くなかった 0人、無回答 3人

【10今後の課題】・・・試写作品も含めた上映作品のセレクト。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （大阪府）献血啓発ポスター原画募集事業

【1目的】……一人でも多くの若者に献血してもらうため、「献血の重要性」、「輸血によってすくわれる命の大切さ」を啓発するポスター原画を若年層を対象に募集する。

【2予定内容】……献血啓発ポスター原画を募集し、その受賞作品を活用した広報資材を作成して、献血の啓発を行う。

【3実施日・場所（予定）】……募集期間7月から9月まで、結果発表12月頃

【4対象者】……16歳から29歳まで

【5昨年度実績】……応募作品303作品、応募があった学校数24校



【6実施手順】……4月 日赤大阪府支部、大阪府血液センターに協力依頼

5月 公募要領の作成と配布

7月～9月 作品を募集

12月 結果発表、表彰式、庁舎内に受賞作品を展示

2月 受賞作品を近鉄大阪難波駅構内に展示

3月 受賞作品を利用したポスター・しおりを作成し、府内高校等に配付

【7予算額】……120,000円（公募要領等の作成）、5,000円（選考会委員謝礼）、

350,000円（受賞作品ポスター等の作成）、74,000円（通信費）、90,000円（景品・血液センター）

【8目標（効果）】……昨年度よりも多くの学校に参加してもらえるよう広報する。

【9実施に向けた課題】……16歳から29歳までを対象としているが、高校生からの応募が主であるため、今後は20代の若者にも応募してもらえるよう広報していく。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （大阪府）事業名 献血おもしろゼミナール

【1目的】・・・愛の血液助け合い運動の一環として、献血年齢に満たない小学生に献血の重要性や血液センターの役割への理解を深めてもらい、将来の献血協力につなげることを目的とするとともに、夏休みの宿題（自由研究）を応援する

【2予定内容】・・・＊アニメーションを使用したスライドを用いて、血液センターの仕事や献血、血液に関する説明。

＊施設見学

＊オリジナル缶バッジ作製イベント

【3実施日・場所（予定）】・・・平成28年7月末頃～8月初旬

【4対象者】・・・小学生（主に3～6年生）〈18歳以上の保護者同伴〉

【5昨年度実績】・・・子供286名、保護者186名、合計472名が参加

【6実施手順】・・・大阪市内の内約4区の小学校校長会に出席し、告知用ポスターの掲示とチラシの配布を依頼。大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会への後援名義申請。HP、けんけつE倶楽部、契約ラジオの番組で告知、市区町村広報紙などへ情報を提供し掲載を依頼する。参加申込みは事前電話予約とする

【7予算額】・・・1485,000円（告知等費用：265,000円、参加記念品：450,000円、処遇用飲料：100,000円、事務用品：100,000円、参加者保険料：20,000円、電話受注委託費：550,000円）

【8目標（効果）】・・・小学生と保護者への献血意義の普及や献血推進を図るための事業であり、多くの小学生に参加してもらい、楽しい体験と共に血液事業に親しんでいただくことで将来の若年層確保対策の一助となることが思料される。（目標参加者数：600名）

【9実施に向けた課題】・・・学推の協力が得られやすい日程調整及び、イベント内容の充実。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (兵庫県)「血液センター夏休み子供見学会」

小学生高学年を対象に「献血とは何か」「輸血の大切さ」をテーマに見学会を実施。

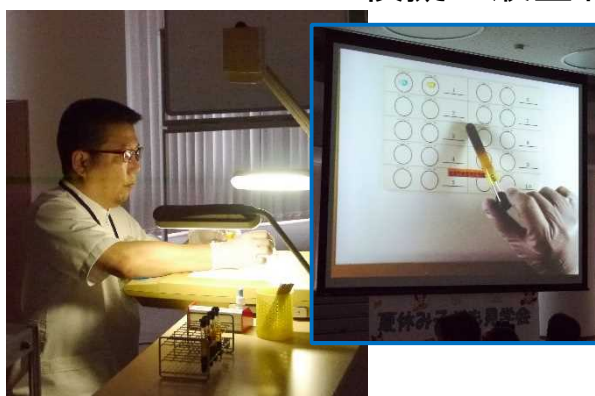
【1目的】 5年後には献血対象者となる小学生高学年に献血を身近に感じていただくことにより
気軽に献血会場にお越しいただくきっかけをつくる為。

【2内容】

献血セミナー



模擬血液型判定



けんけつちゃんグッズがちゃ



献血バス採血室体験



血液搬送車体験



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
(兵庫県)「血液センター夏休み子供見学会」

【3実施日・場所】 平成27年8月10日(月) 午前 午後の2回 ・ 兵庫県赤十字血液センター
【4対象者】 小学生 高学年
【5実施手順】 ホームページ・SNS(LINE@)・新聞告知にて募集



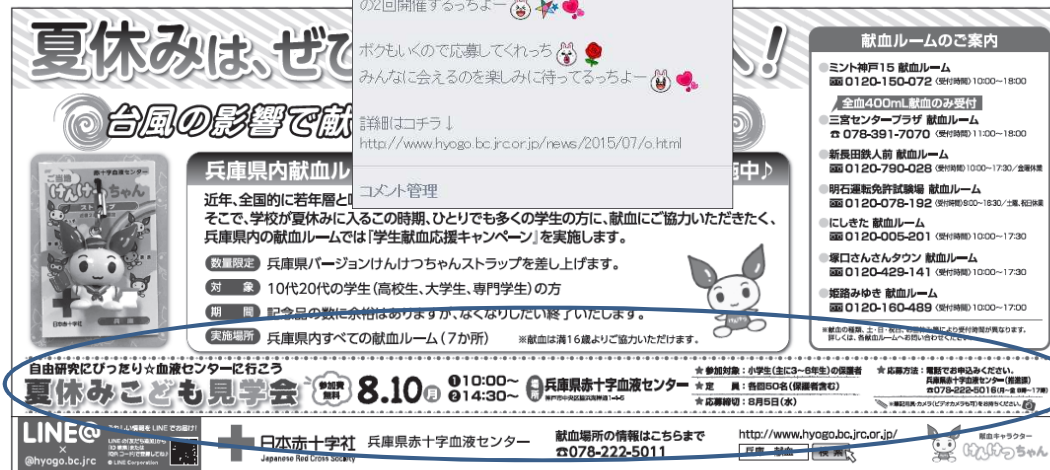
ホームページ

LINE@



新聞廣告

150731 全5段



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （兵庫県）「血液センター夏休み子供見学会」

【6実施に際して苦労したこと】 午前と午後の2回実施としたが午前の応募に集中してしまい
見学場所の人数配分に苦労した。

【7予算額】 音楽演奏および着ぐるみパフォーマンス業者委託 税込59,400円
記念集合写真代 税込10,000円
がちゃがちゃのグッズ(他イベント余剰分使用) 0円

【8来場者】 午前35名＋午後18名 ＝ 53名(保護者24名含む)

【9効果(評価)】

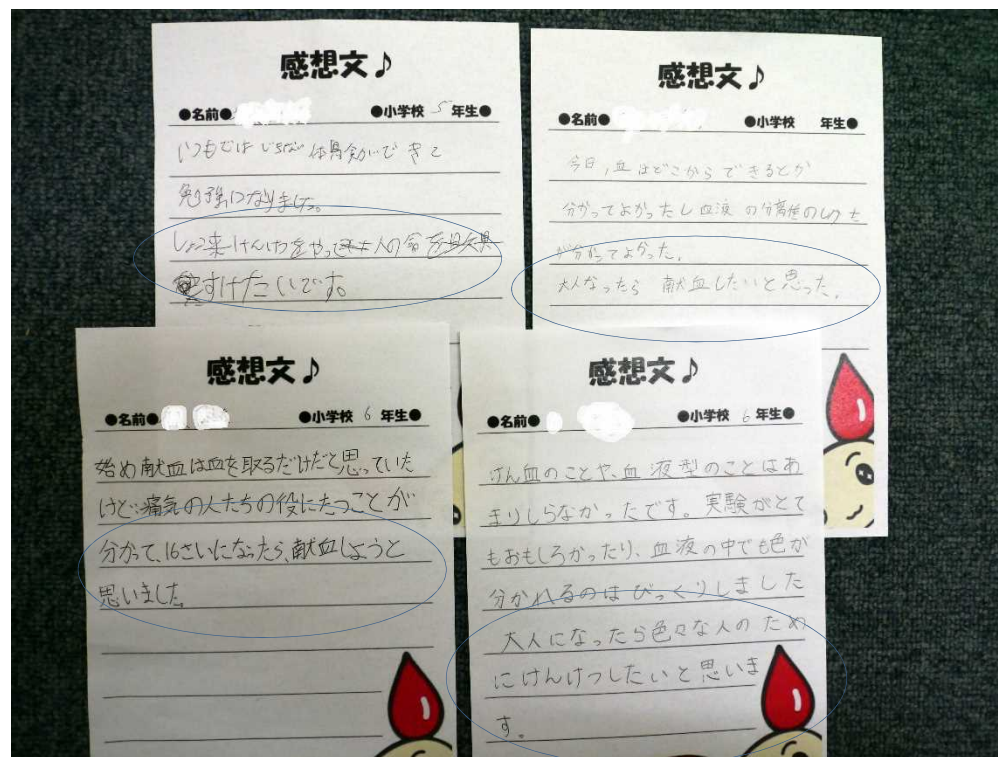
感想文によると「大人になったら献血
したい」との感想が55%あり一定の
効果があったものと思われる。

【10問題点】

低予算の中、他イベント余剰処遇品を
用い、がちゃがちゃをおこなったが在庫
に限りがある為、今後対策が必要。

【11今後の課題】

参加する小学生の目線でいかに普及
啓発をおこなうか。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （兵庫県）「高校生献血推進ボランティア事業」

【1 目的】

若い世代の献血離れや少子高齢化が進むなか、将来にわたって輸血用血液を安定的に供給できるよう、在校中に初めて献血可能年齢を迎える高校生（高等専門学校生含む）を対象に、高校生自らが献血推進ボランティアとして同年代への献血の普及啓発を行うことにより、将来にわたる献血協力者の安定的確保を図る。

【2 内容】

文化祭等の機会を活用して、献血啓発コーナーを設置し、有志の高校生献血推進ボランティアが献血の啓発活動（パネル展示・アンケート等）を行う。

【3 実施数】 29校で実施（平成27年度実績）

【4 活動ボランティア数】 590人（平成27年度実績）

【5 予算額】 83千円（啓発資材等）

【6 効果】

高校生ボランティアとして活動した生徒をはじめ、啓発コーナーに入場した高校生たちが、献血の必要性や命の大切さ理解し、今後献血する機会があれば参加したいと感想を述べていることから、一定の啓発効果があったといえる。

【7 今後の課題】 過去に実施した高校以外にも実施してもらえるよう事業のPRの必要がある。

<活動風景>



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （兵庫県）INAC神戸と連携した献血啓発活動

【1目的】

女子プロサッカーチーム「INAC神戸レオネッサ」と連携しておこなう若年層献血普及啓発

【2内容・実施予定日】

- ・ 5月 世界赤十字デーに合わせ1日献血ルーム所長イベント実施
- ・ 8月 夏休み子供見学会実施時、小学生と同席していただきセミナー実施
- ・ 11月 血液確保に苦慮する下半期に合わせ献血ルーム呼びかけ啓発実施
- ・ 1月 はたちの献血キャンペーン実施

【3対象者】

- ・主として10～30代の若年層をターゲットとする。

【4実施手順】

低予算の為、献血バス配車時の事前告知用ポスターにINAC神戸選手を起用し、INAC神戸についてもチームの普及啓発をおこなうことで、出演料を低額におさえる。

（事前告知用ポスター設置数 ＝ 平成27年度1146献血会場）

【5予算（概算）】

- ・INAC神戸年間出演料 400,000円
- ・ポスター作成費 200,000円

【6実施目標】

若年層への普及啓発およびメディアへのプレリリース配信を積極的におこない、県民への献血啓発に繋げる。昨年度は新聞記事掲載をいただいたがNHK、民放、ケーブルTV等への放送をいただくよう努める。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （兵庫県）INAC神戸と連携した献血啓発活動

【7実施に向けた課題】

試合・怪我等によりINAC神戸選手のスケジュールが直前まで判明しないときがあり綿密な調整が必要となる。

【8昨年度実績】

平成27年12月23日（祝）、2か所（ミント神戸15献血ルーム・三宮センタープラザ献血ルーム）の献血ルームで啓発活動を実施し献血ルーム周辺での呼びかけ、献血者へのチームグッズプレゼント、献血者先着順でサイン会を実施。兵庫県学生献血推進協議会の協力もいただき、雰囲気作りに努めた。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (兵庫県)INAC神戸と連携した献血啓発活動

【9新聞掲載記事】

イベント実施翌日朝刊(12月24日)、3社掲載。

朝日新聞



**INAC3選手
献血を呼びかけ**
神戸三宮センター街
献血者が少なくなる年末年始を前に、INAC神戸レオネッサの3選手が23日、神戸三宮センター街(神戸市中央区)で献血を呼びかけた。

参加したのは三宅史織選手(20)、杉田妃和選手(18)、平田美紀選手(20)。高校時代から献血をしているという平田選手は「献血ルームはお菓子やジュースがそろっていて、ゆっくりできる。ぜひ来てみて」。この日は、献血した24人と記念撮影もした。写真。高砂市の会社員、渋谷優佳さん(20)は「サッカーを見ることが好きなので、うれしい。これからも献血を続けたい」と話した。

毎日新聞



サインに応じるINAC神戸の選手ら
＝神戸市中央区で

INAC3選手 献血に「協力を」
三宮で呼びかけ
女子サッカー・INAC神戸レオネッサの3選手が23日、神戸市中央区の三宮センタープラザとミント神戸で買い物客らに献血への協力を呼びかけた。献血について幅広い世代に関心を持ってもらうようと、県赤十字血液センターが企画。今年は特にO型が不足しているという、三宅史織選手(20)、杉田妃和選手(18)、平田美紀選手(20)の3選手が「まず」と声を張り上げた。センターの職員らと共に「協力をお願いします」
献血をした人には「人に協力してほしい」と話した。

神戸新聞

**冬場の献血協力を
INAC選手が呼び掛け**
三宮
女子サッカー、などで(18)が道行く人にディレクター1部INAC神戸の選手が23日、神戸・三宮で買い物客らに献血への協力を呼び掛けた。県赤十字血液センターが開いた。冬場は献血する人が減少傾向にあり、現在はO型の血液の確保が厳しいという。



献血への協力を呼び掛ける平田美紀選手＝中央区三宮町

この日は平田美紀選手(20)、三宅史織選手(20)、杉田妃和選手(18)の3選手が「まず」と声を張り上げた。センターの職員らと共に「協力をお願いします」
献血をした人には「人に協力してほしい」と話した。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （兵庫県）高校生献血推進ボランティア事業

【1 目的】

若い世代の献血離れや少子高齢化が進むなか、将来にわたって輸血用血液を安定的に供給できるよう、在校中に初めて献血可能年齢を迎える高校生（高等専門学校生含む）を対象に、高校生自らが献血推進ボランティアとして同年代への献血の普及啓発を行うことにより、将来にわたる献血協力者の安定的確保を図る。

【2 事業内容】

文化祭等の機会を活用して献血啓発コーナーを設置し、有志の高校生献血推進ボランティアが献血の啓発活動等を行う。

- ① 献血や血液に関するパネルの展示
- ② 献血広報ポスター（厚労省・日赤作成品、ボランティア自主作成品）の展示
- ③ 啓発用DVD等の上映
- ④ 啓発用資材やリーフレット等の配布
- ⑤ 意識調査等のためのアンケート、クイズの実施

兵庫県赤十字血液センターと連携・調整して、効果的な事業展開を図る。

- ① 効果的な普及啓発を図るため、実施校の希望等により、有志のボランティアに対して、又は献血啓発コーナー等において「献血セミナー」を実施する。
- ② 実施校の希望等による事業に併せた献血バスの配車については、血液センターと協議の上、可能な範囲で行う。

【3 実施校】事業の趣旨・目的及び事業内容等を、関係機関への文書、県立高校保健部長会及び私学連合養護教諭研修会等を通じて周知し、実施協力校の参加を募る。

【4 予算額】80千円（啓発資材等）

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （奈良県）献血運動啓発ポスター募集事業

【目的】献血運動啓発ポスターを募集し、入賞者を表彰する他、入賞作品より作成した啓発物品を県内の高校等に配布することで将来、献血を担う若い世代を中心に献血への関心と理解を深めてもらうことを目的とし毎年、奈良県の愛の血液助け合い運動の一環として実施している。

【内容】入賞者を知事が表彰し、入賞作品をショッピングモールに展示する他、しおり、ポスター等の献血啓発物品として活用する。

【実施日】ポスター募集期間：平成27年4月～平成27年6月

表彰式：平成27年8月5日（水）

【実施場所】表彰式：奈良県庁内会議室

【対象者】応募資格：県内在住・在学・在勤者の方

啓発物品の配布先：「ポスター」県内の高校及び大学

「しおり」県内の高校1年生及び県内の書店8箇所



【実施に至る手続き】奈良県、奈良県献血推進協議会の主催及び奈良県教育委員会、奈良県私立中学高等学校連合会の後援で、関係者への募集案内及び報道機関への資料提供を行い応募者を集めた。

【予算】90千円

【応募者】92名

【苦労したこと】入賞作品の展示先の確保

【効果（又は評価）】県内の高校及び大学にポスター及びしおりを配布することにより、若年層への献血事業の推進に効果があった。

【改善点（又は問題点又は反省点）】応募者のほとんどが小中学生でそれ以外の応募が少ない。

【今後の課題（又は今後の対応方針）】Facebook等をうまく活用する事により幅広く応募者を募るとともに啓発物品等を有効に活用する。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (奈良県)燈花会の彼方～献血コラボイベント～

■ 内容

アニメ「境界の彼方」との献血コラボイベント第二弾として実施。「なら燈花会」開催期間中に展開されていたイベント「境界の彼方×なら燈花会 燈花会の彼方-第二章-」の企画の一つとして、会場に近い近鉄奈良駅ビル献血ルームにてパネル展の実施・献血者へのオリジナルグッズ(眼鏡拭き)の進呈等を行った。

■ 目的

若年層および30代にも人気の作品での献血強化層への働きかけ。献血未経験者が献血をするきっかけとなるイベントを目指した。また、燈花会開催期間中の近鉄奈良駅周辺の来場者増を見込み、新たな献血者の確保を目指した。

■ 実施日

平成27年8月5日(水)～8月14日(金) 計10日間

■ 場所

近鉄奈良駅ビル献血ルーム

■ 協力機関

なら燈花会・橿原デジタルコンテンツ推進委員会・松竹(株)

■ 対象(ターゲット)

主に若年層・30代および初回献血者。アニメファン等。

■ 費用

オリジナル眼鏡拭き @297円×150枚＝44,550円(税込)

■ 力を入れた点

献血に興味の無い方にも足を運んでもらえるように、献血ルームギャラリースペースにてパネル展を実施。アニメ制作会社さまよりセル画を提供いただいた。写真に撮りたくなるような展示を心がけ、来場者のSNSへの投稿を図った。

■ 効果・来場者

このイベントがきっかけで献血にチャレンジしたという初回献血者が期間中20名ほどおられたことから「献血未経験者へのきっかけづくり」にも効果があったと言える。1日の献血者も普段より10名増となった。ギャラリースペースでのパネル展示も好評であった。ギャラリーの様子を撮影し、写真をTwitter等のSNSに投稿する方も多々おられた。



←ノベルティ
眼鏡拭き

■ 総評・今後の課題等

移動採血車にて400mL献血限定で行った前回と比べ、今回は成分献血もOKとしたことから、初回献血者よりは複数回献血経験者の参加が目立った。それに合わせて参加者の年齢層も30代・40代以上が増える結果となった。若年層ではなく、今後30代の献血者の強化を図るなら、成分献血限定のイベントを行うことが効果的と推察できる。

一方、このイベントがきっかけで献血にチャレンジしたという初回献血者も20名ほどおられたので、「献血未経験者へのきっかけづくり」にも効果があったと言える。「1日10名献血者増」の目標も概ね達成できた。

ギャラリーの様子を撮影し、写真をTwitter等のSNSに投稿する方も多々おられた。

実際、そうしたTwitter上の情報を見て来所された方もおられたので、来られた方が写真を撮りたくなる場所・物を準備しておくこともSNSを利用した情報拡散を目指す上では必要であると考えられる。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (奈良県) 献血運動啓発ポスター募集事業 (奈良県) 愛の血液助け合い運動街頭献血キャンペーン

献血運動啓発ポスター募集事業

【目的】県民の方々に献血についての理解を深めていただく。

【予定内容】献血に関するポスターを募集し、特に優秀な作品を表彰・展示する。特選・入選作品はしおり等の作成に利用し、県内の高校1年生及び大学1回生に配布する。

【実施日・場所(予定)】4月～6月上旬まで作品募集、8月に表彰・展示会を開催予定。

【実施手順】2月 後援団体への協力依頼。

3月 ポスター募集の報道発表、県内の小中高等学校等200施設に協力依頼。

8月 表彰式、ポスター展示。

【予算額】約90千円

【目標】若年層へ献血の意義や必要性について普及啓発する。実際の献血に繋がられる工夫をする。

愛の血液助け合い運動街頭献血キャンペーン

【目的】献血思想の普及啓発並びに血液の不足する夏期における献血者を確保する。

【予定内容】街頭献血キャンペーンを7月～8月に県内各市町村で実施。7月上旬に県主催の街頭啓発キャンペーンを近鉄奈良駅周辺で実施。県主催のキャンペーンについては、地元テレビ局による取材予定。

【目標(効果)】一人でも多くの県民の方々に献血についての理解を深めていただくとともに、広く献血運動推進のPRに役立てる。献血ルームそばのキャンペーンであるので献血ルームまで足を運んで頂き、実際に献血まで繋げる。

【実施に向けた課題】

献血ルームそばのキャンペーンであるので、いかにして実際に献血まで繋げるかがポイント。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 (奈良県)献血まるわかりゼミ

■ 目的

今後の輸血医療を支える若年層の方々に、親しみをもって献血について知っていただく。輸血医療について考えるきっかけを作り、将来的な献血協力につなげる。
また、保護者同伴で参加していただくことによって、家族間においても献血に対する興味・関心・理解を深めていただく。

■ 内容

血液センターの施設見学会。血液、献血についての話・クイズの後センター内を見学。

■ 実施日・場所

平成28年8月初旬 2～3日間(午前・午後の1日2回)
奈良県赤十字血液センターにて

■ 対象者

主に小学3～6年生およびその保護者

■ 昨年度実績

1日2回、計2日間で約220名参加

■ 実施手順

血液センター(大和郡山市)近辺の市町村にしぼり、各教育委員会宛に小学校への募集チラシ配布の依頼文を作成。
対象となる小学校の生徒全員へチラシ配布を行い、電話・メールにて先着順で参加受付を行う。

■ 予算額

30万円
参加者募集チラシ・ポスター、当日配布資料、記念品等

■ 効果

夏休みの自由研究の課題に利用される方が多く、毎年満員御礼となっている。ゼミをきっかけに両親の献血に付き添う子供さんもおられる。早くから献血について知ってもらうことは、将来的な献血協力につながると考えられる。

■ 課題

各小学校へのチラシ配布を全て血液センター職員の手作業で行っているため、実施規模を広げにくい。
業務集約化にて奈良センターで見学できる工程が少なくなってしまった。「製造」「検査」など、見学できない工程はビデオを見せる等、内容を工夫する必要がある。



【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （和歌山県）夏休み献血ふれあい体験学習

【1目的】献血に関する情報を提供し、親子で献血の重要性について考えてもらう。

【2内容】施設見学、献血バスでの献血模擬体験、献血推進DVD上映、献血クイズの実施。また、近畿ブロック血液センターでは「血液製剤の製造工程」を見学。小学生には感想文、保護者にアンケートを実施。

【3実施日・場所】平成27年8月4日（火）和歌山県赤十字血液センターと近畿ブロック血液センター。

【4対象者】小学生及び保護者。



【5実施手順】近畿ブロック血液センターと日程を調整し、新聞や雑誌・ホームページで募集。

【6実施に際して苦労したこと】乗車人数に制限（大型バス1台）があるため、可能な限り、**多くの小学生の参加が得られるよう** 1組に対して保護者1名での参加をお願いした。

【7予算額】約13万円（大型バス借上費・通行費・保険料）。

【8来場者】56名（小学生32名、保護者24名）

【9効果（評価）】感想文には「**16歳になったら、必ず献血します。**」といった献血協力への強い意志が込められた感想が多く寄せられており、**将来的な献血協力が期待できる。**また、保護者へのアンケート調査からは献血の重要性について更に理解が深まったと考えられる。

【10今後の課題（又は今後の対応方針）】JR和歌山駅出発のため、和歌山市（県北部）を中心とした参加者が多く、広く県民皆様の理解を得るためには県南部の方も気軽に参加できるよう工夫したい。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 （和歌山県）若年者向けの献血セミナー

【1目的】若年層（特に**10代**）の学生を主体に、今後の献血への動機付けや、きっかけ作りはもとより、将来的かつ継続的な献血への協力に理解を深めてもらう。

【2内容】**直接学校へ出向く**など血液センター所長による献血の現状説明や元受血患者の方の体験談などの講演。セミナー後アンケート調査を実施。

【3実施日・場所】県内中学校（2校）・高等学校（7校）＊すべて公立

【4対象者】各校生徒（1学年全体）



【5実施手順】各学校と連絡調整し実施する。

【6実施に際して苦労したこと】多くの学校はカリキュラムが詰まっているため断られることが多い。

【7予算額】講師の交通費、印刷費。

【8来場者】セミナー回数：**14回**、受講生徒：**1,097名**（平均78名程度）

【9効果（評価）】アンケート調査によると元受血患者の方の体験談に関心が高く、「**今度献血に協力してみる。**」との声が多く寄せられた。また、既に献血を実施している高等学校については、献血者数が増加している。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】次年度の計画を策定するなど、継続的な実施を目指す。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】学校の希望日と講師との日程調整が困難な場合があるため、複数の講師が必要である。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】 (和歌山県)学生ボランティアによる県内献血推進活動

【1目的】同年代における若者の献血離れと血液不足の防止。

【2内容】季節に合った献血記念品の作成やキャンペーン名を掲げ、和歌山市を中心に県内各地の献血会場(街頭)や当該学生が在籍する大学、専門学校内献血において同年代を対象とした献血啓発活動を実施する。

【3実施日・場所】県内各地の献血会場**23**会場(街頭)で実施。(月に約1~2回実施)

【4対象者】献血会場来場者。



【5実施手順】年度末に学生ボランティアの新リーダーと打ち合わせを行い、年度初めに研修会を開催し、当年度の計画(特に**全国的な減少時期**に合わせて)を立てる。

【6実施に際して苦労したこと】**学生ボランティアが約100名在籍**しており、献血会場の協力者側(店舗等)へ迷惑とならないよう配慮し、献血会場での活動人数に制限を設けなければならない。

【7予算額】100万円(交通費、献血記念品等)

【8効果(評価)】キャンペーン実績においては、一生懸命な学生ボランティアの献血啓発活動により、当日の献血者増(1稼動平均54.3人)が顕著に現れており、**同年代である10・20代の献血占有率は26.4%**(同年度全実績19%)と高値を示し、同年代への献血啓発効果がうかがえる。

【9改善点(又は問題点又は反省点)】楽しく・元気に・学生らしい献血啓発活動が継続して実施できるよう献血の重要性について深く理解できる機会(研修会)を増やしたい。

【10今後の課題(又は今後の対応方針)】卒業後は、引き続き、血液事業のパートナー(献血推進者)となってもらえるよう**元学生ボランティア組織を構築する**。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （和歌山県）若年層献血者確保対策

若年層献血者の確保と将来の献血者確保強化

【1目的】

今後の献血を担う若者に献血の現状を深く理解いただき、将来的な献血者確保に繋げる。

【2予定内容】

（1）将来の献血者確保

- ア. 小学生を対象とした血液センター見学や献血模擬体験等の実施。
- イ. 中学生を対象とした出前型献血セミナーの実施。

（2）若年層献血者確保

- ア. 高校生、大学生等を対象とした出前型献血セミナーの実施。
- イ. 同年代の若者による献血啓発活動（和歌山県学生献血推進協議会（以下、「学生ボランティア」という。）による学内献血及び各種献血推進キャンペーンの実施）

【3実施日・場所（予定）】

通年

【4対象者】

10代、20代の若年層

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （和歌山県）若年層献血者確保対策

【5実施手順】

（1）献血推進キャンペーン

- ア. 学生ボランティアと年度計画の策定（場所・時期等）、記念品・ポスター等の検討及び作成
- イ. 各献血会場への依頼・ポスター等の掲示及び配布

（2）献血セミナー

- ア. 県内各学校への協力依頼
- イ. 協力学校及び講師との日程調整

【6予算額】

（1）学生ボランティアの活動費用

献血者処遇品、交通費（146万円）

（2）献血セミナー

大型バスの借上げ、セミナー参加記念品、講師交通費等（66万円）

【7目標（効果）】

- （1）献血推進キャンペーン実績における10代、20代の献血占有率**30%**
- （2）県・学校とのより良いコミュニケーション構築と県全域への展開

【8実施に向けた課題】

献血セミナー実施に向けての各学校と講師の日程調整。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】 （和歌山県）赤十字献血ふれあいカーニバル

【1目的】

和歌山県赤十字血液センターの近隣住民を中心とした県民の方々に血液センターを活用した各種ふれあいイベント等を実施し、より身近に赤十字理念・血液事業を知っていただく。

【2予定内容】

献血コーナー、キッズ献血体験コーナー、キッズ赤十字救護ユニホーム記念撮影、赤十字奉仕団による災害時の炊き出し、救急法及びAED体験などの赤十字に特化したブースを設け、また、子供向け縁日コーナー等を設置予定。

【3実施日・場所(予定)】

平成29年2月・和歌山県赤十字血液センター

【6協力団体】

和歌山県及び日本赤十字社和歌山県支部、日本赤十字社和歌山医療センター、赤十字奉仕団、学生ボランティア等の協力。

【7予算額】

準備品や記念品等(150万円)

【8目標(効果)】

地域に根ざした血液センターのイメージを確立することにより、赤十字活動(特に献血)に関心を持っていただく。

【9実施に向けた課題】

全職員での打合せや準備等の時間確保が難しい。